

手順編

0. 施工前の準備	▶34
1. 排水ソケット・給水管・止水栓(床給水床排水)	▶36
2. ブラケット	▶37
3. 間口調整フィラー・サイドキャビネット・手洗器キャビネット	▶38
4. 止水栓	▶48
5. 紙巻器キャビネット	▶49
6. サイドキャビネット・間口調整フィラー・ ACアダプター・センサー	▶50
7. 足元照明	▶56
8. カウンター	▶59
9. ビルトインリモコン	▶70
10. アクセントパネル (オプション)	▶71
11. 手洗器・水栓金具	▶76
12. フレキホース・ コントローラー・ 電気温水器	▶81
13. 排水トラップ	▶85
14. 紙巻器	▶87
15. 試運転・確認	▶90
16. カバー(配管)	▶97
17. ラベル	▶98
18. シリコン系 シール剤	▶99
19. ビルトインリモコンの 組み合わせ設定	▶100
20. 照明付化粧鏡の 動作確認	▶103

マーク表示について



寒冷地仕様の場合を示します。



電動ドライバー
使用禁止です。
手締めしてください。



カット
カットして
ください。



穴を開けてください。
(例:φ35~40の場合)



測定
測定してください。



下穴
下穴を開けてください。
(例:φ3の場合)



シール
シールテープを
巻いてください。



接着剤
接着剤を塗布して
ください。



両面テープ
両面テープを
張ってください。



脱脂
脱脂用アルコールで
脱脂してください。



けがき
けがきを
してください。



水平確認
垂直確認
水準器で水平・垂直
確認してください。

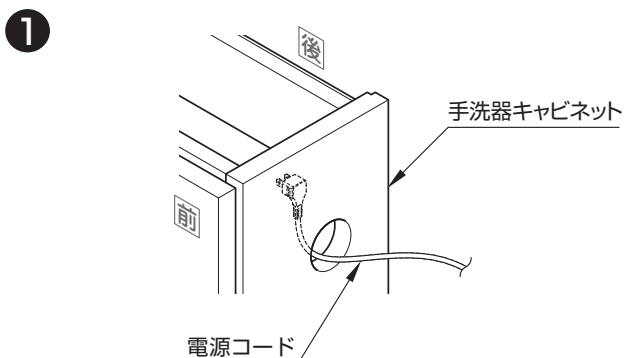


塗布
塩ビ用接着剤を
塗ってください。

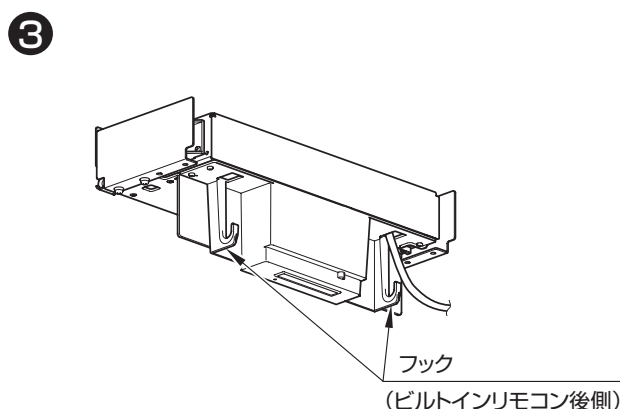
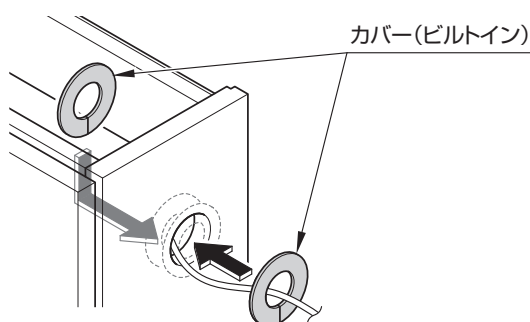
9.ビルトインリモコン

ビルトインリモコンなしの場合はP.71へ

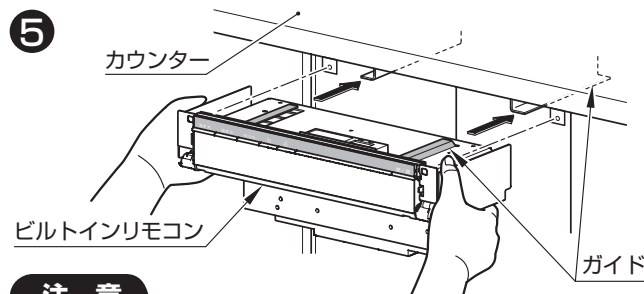
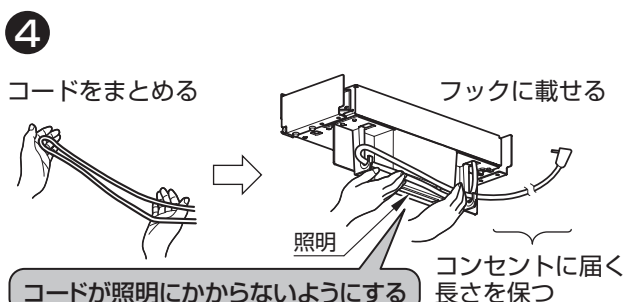
1 ビルトインリモコンの取り付け



② カバー(ビルトイン)を穴の両側から張る

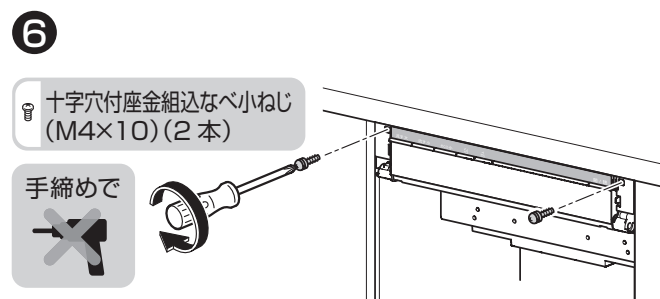


余ったコードはフックに載せる



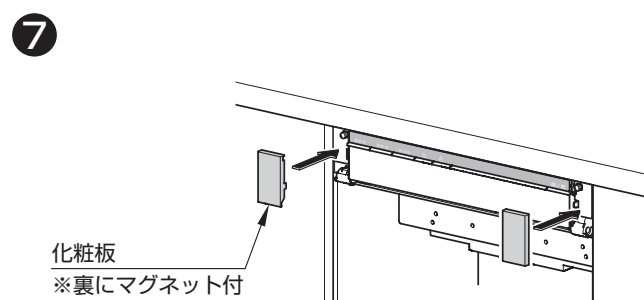
注意

ビルトインリモコンと化粧板は傷つきに注意する



注意

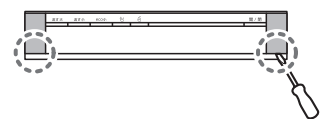
ねじは硬くなるまでしっかり締め付ける



※化粧板が水平になっているか、すき間が均一か確認する

化粧板の外しかた

施工のやり直しなどで化粧板を取り外すときは、化粧板とビルトインリモコンのすき間にマイナスドライバーなどの工具を差し込み取り外す

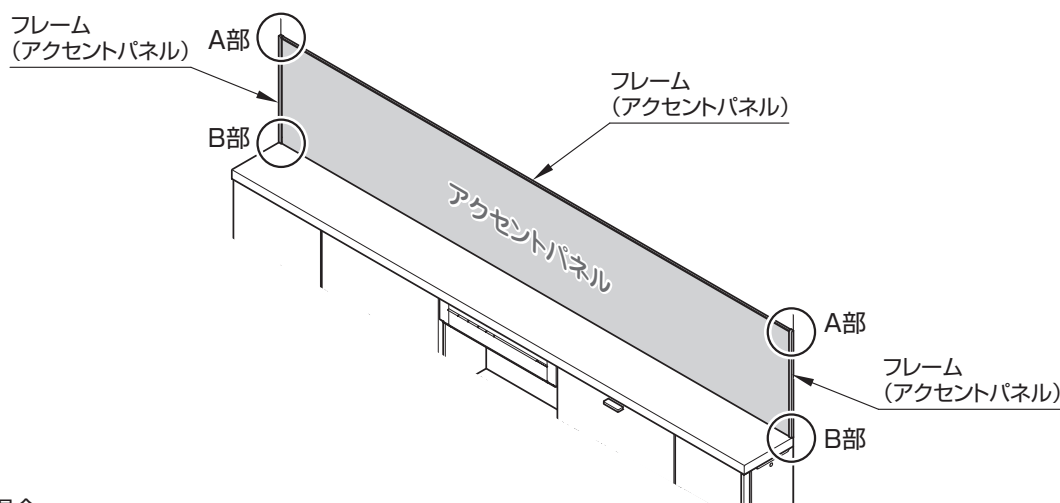


10.アクセントパネル(オプション)

アクセントパネルなしの場合はP.76へ

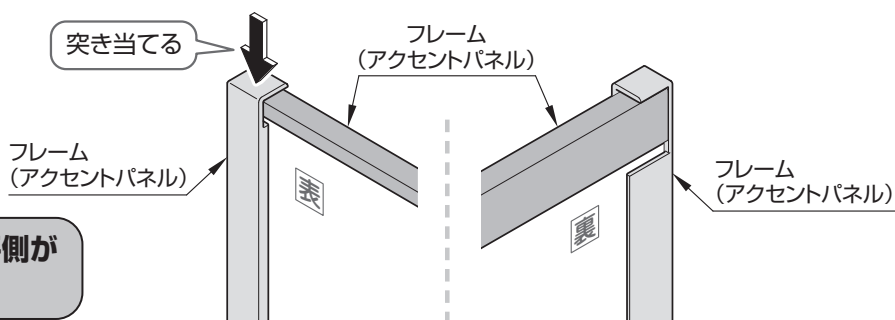
- 1 アクセントパネル設置の準備**
▶P.72
- 2 フレーム(アクセントパネル)の取り付け**
▶P.74
- 3 アクセントパネルの取り付け**
▶P.74
- 4 リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップの取り付け**
▶P.75

完成イメージ① 全体



※図はMサイズの場合

完成イメージ② A部



注意

フレーム(アクセントパネル)は水平側が垂直側に飲み込まれること

完成イメージ③ B部

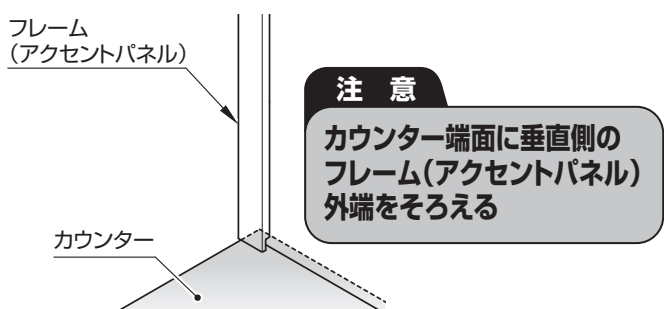
【側面壁と接する場合】



注意

側面壁に垂直側のフレーム(アクセントパネル)外端をそろえる

【側面壁と接しない場合】

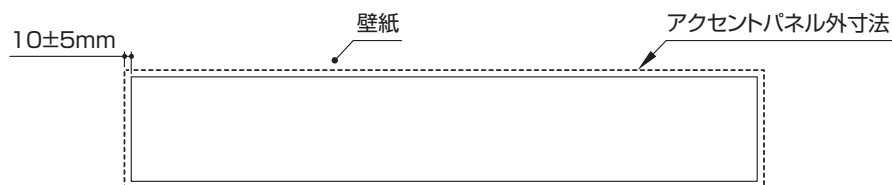


注意

カウンター端面に垂直側のフレーム(アクセントパネル)外端をそろえる

器具の取付前に

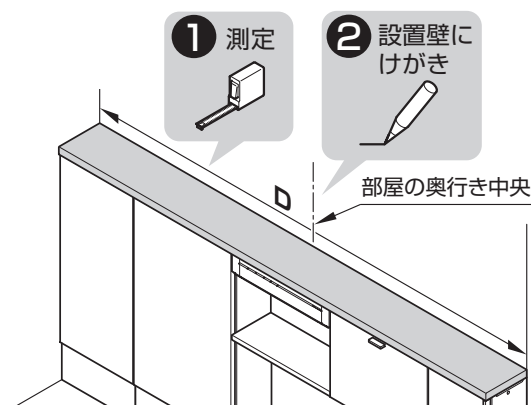
壁紙が既に張られている場合には、アクセントパネル外寸法より10±5mm内側の範囲をはがしてください。



1 アクセントパネル設置の準備

1 方エプロンの場合

① 部屋の奥行きを測定する



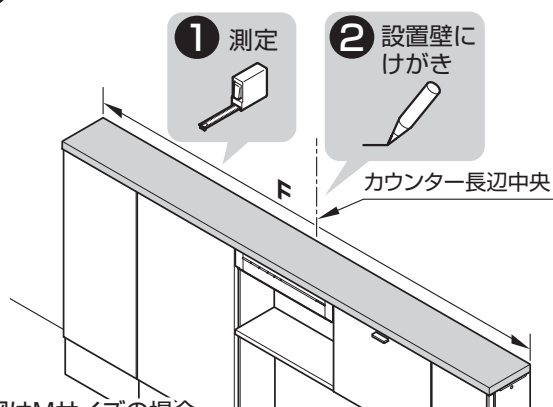
※図はMサイズの場合

③ アクセントパネルの長辺長さを計算する

部屋奥行き D	規定寸法	アクセントパネル 長辺長さE
	10	

2 方エプロンの場合

① カウンターの長辺長さを測定する

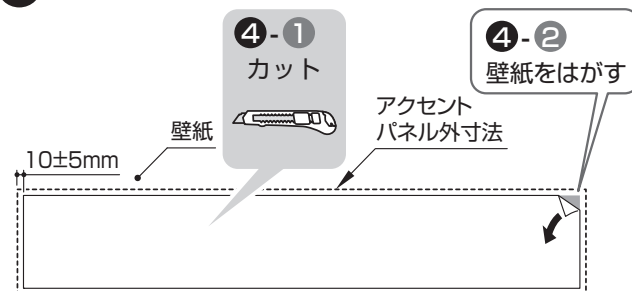


※図はMサイズの場合

③ アクセントパネルの長辺長さを計算する

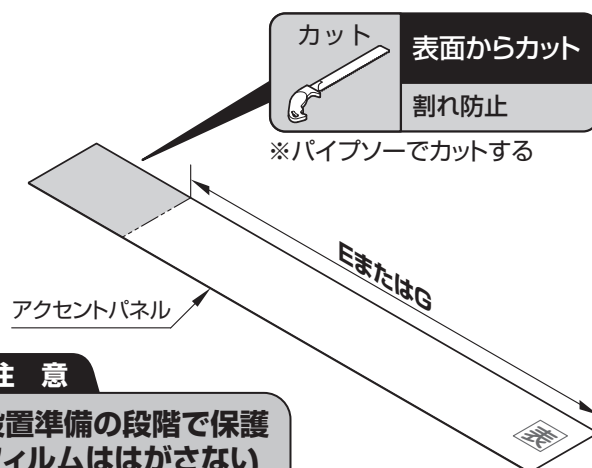
カウンター 長辺長さF	規定寸法	アクセントパネル 長辺長さG
	8	

④ 壁紙をはがす



※壁紙の裏打ち紙は可能な限りはがしてください。

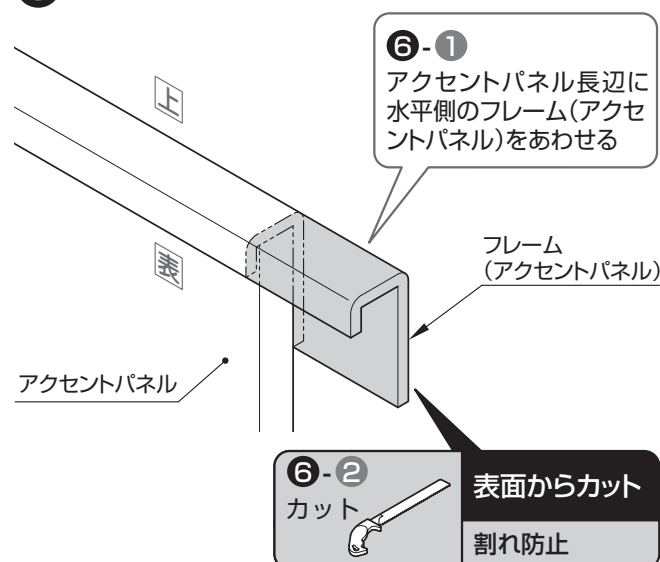
⑤ ③の長さにあわせて切断する



注意

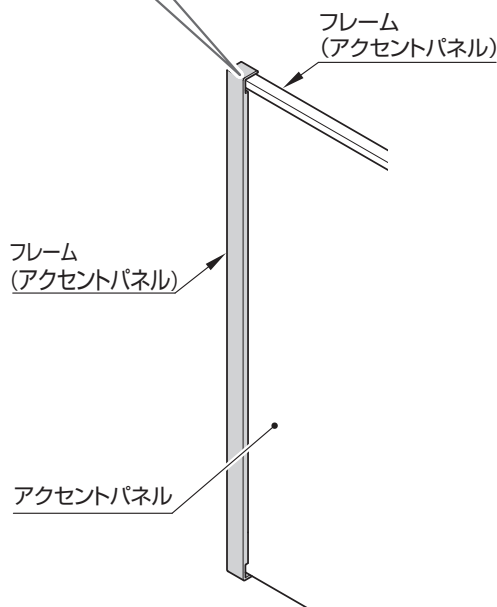
設置準備の段階で保護フィルムははがさない

⑥ 水平側のフレーム(アクセントパネル)を切断する

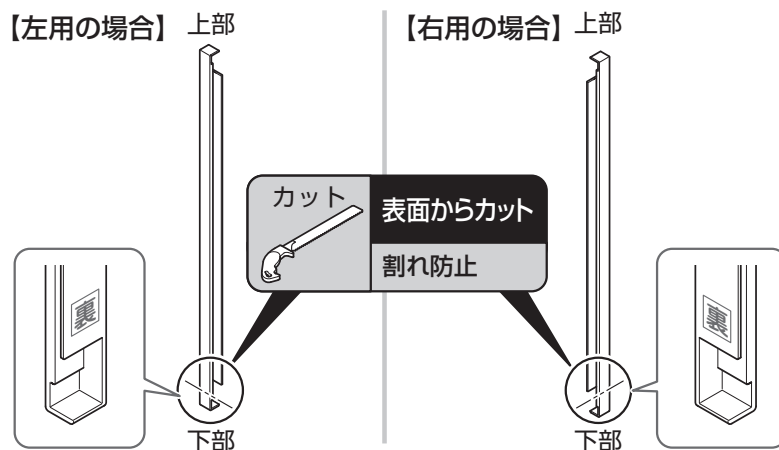


7 垂直側のフレーム(アクセントパネル)を切断する

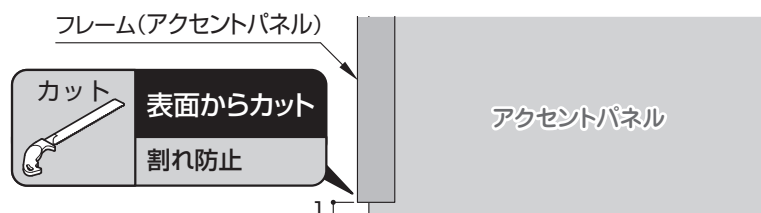
7-① アクセントパネル短辺に垂直側のフレーム(アクセントパネル)をあわせる



カット位置

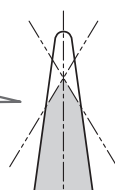


7-② アクセントパネル下端より1mm短く切断する

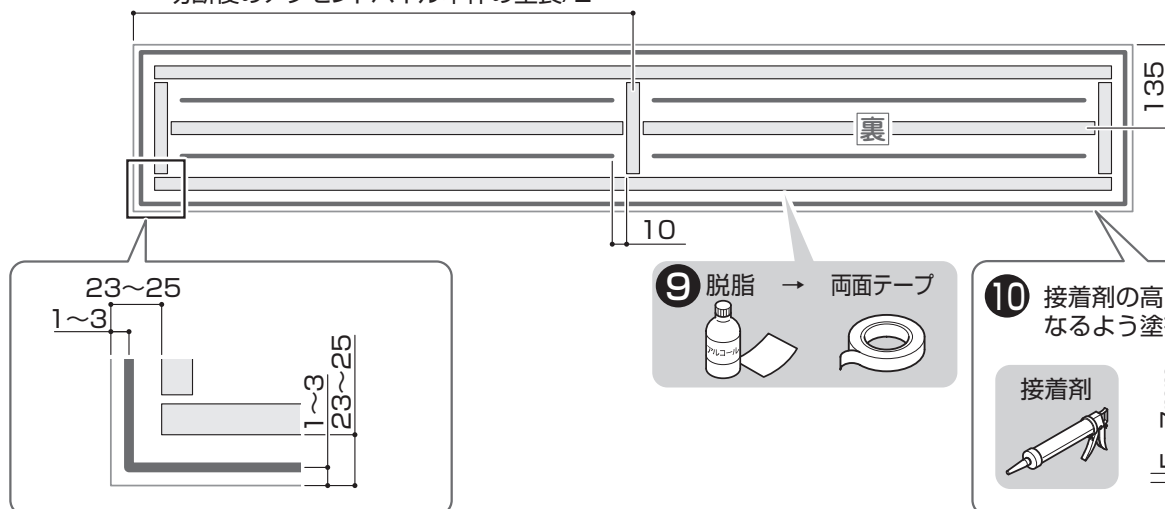


8 接着剤のノズル先端を切断する

ノズル先端を2方向からカットすると、
接着剤の塗布量が一定になる

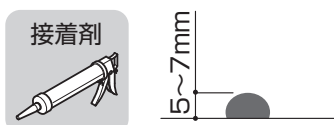


切断後のアクセントパネル本体の全長/2



9 脱脂 → 両面テープ

10 接着剤の高さが5~7mmになるよう塗布する



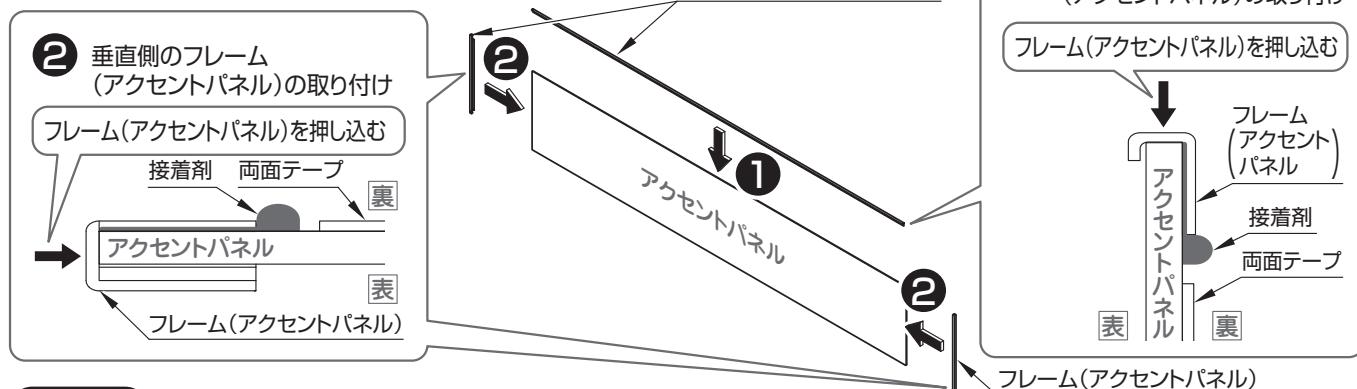
注意



両面テープは重ならないように張り付ける
両面テープが重なるとアクセントパネルが壁から浮き、
外れるおそれがあります。

必ず守る

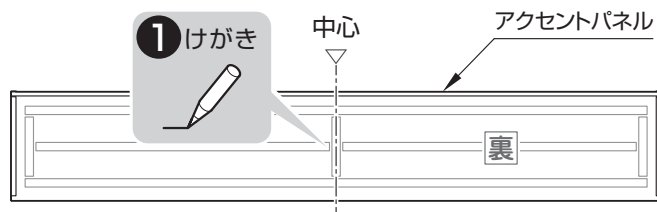
2 フレーム(アクセントパネル)の取り付け



注意

- ・フレーム(アクセントパネル)の押し込み後、接着剤の高さが5~7mmになっていない箇所は再度接着剤を塗布する
アクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。
- ・接着剤が両面テープの上に乗らないようにする
アクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。

3 アクセントパネルの取り付け

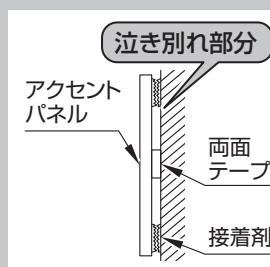


2 建築壁面のほこりを除去する



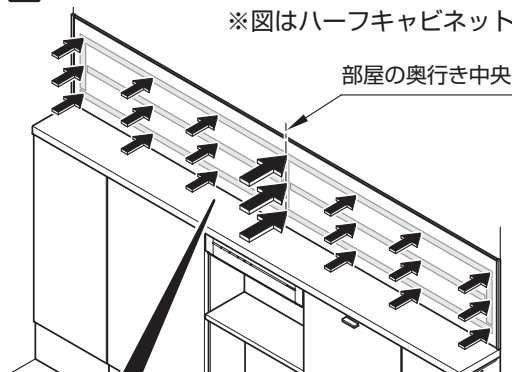
注意

- ・アクセントパネル中心と**1**でけがいた線を必ずあわせる(片側あわせしない)
垂直側のフレーム(アクセントパネル)で調整代が確保できず、垂直側のフレーム(アクセントパネル)と壁にすき間ができる、または、垂直側のフレーム(アクセントパネル)とカウンター端が揃わないおそれがあります。
- ・接着剤部を押さない
接着剤の泣き別れによりアクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。
- ・接着剤塗布後、30分以内に張り付ける
アクセントパネルが壁からはがれるおそれがあります。



1 方エプロンの場合

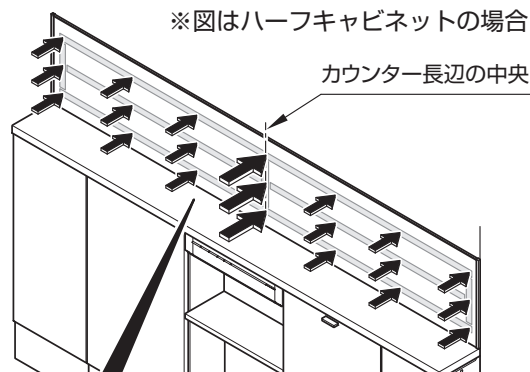
- 3 1**でけがいた線にアクセントパネル中心をあわせる
※図はハーフキャビネットの場合



- 4** パネル取り付け
両面テープ部に沿ってしっかり押さえ付ける

2 方エプロンの場合

- 3 1**でけがいた線にアクセントパネル中心をあわせる
※図はハーフキャビネットの場合

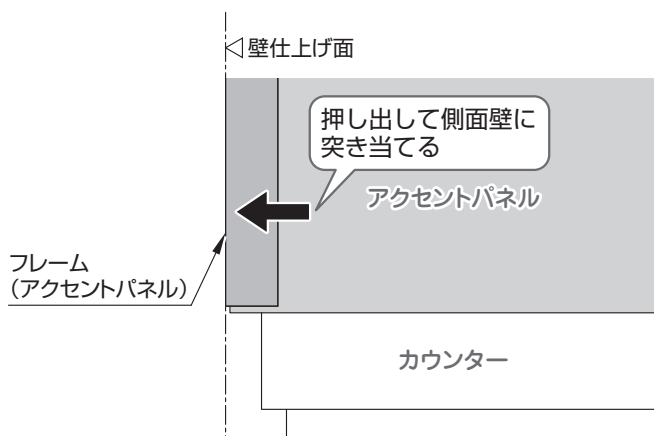


- 4** パネル取り付け
両面テープ部に沿ってしっかり押さえ付ける

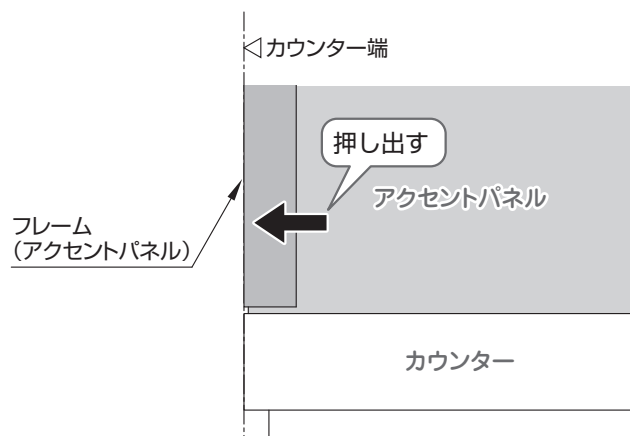
- 5** アクセントパネル表面の保護フィルムをはがす

⑥ 垂直側のフレーム(アクセントパネル)を調整する

側面壁と接する場合



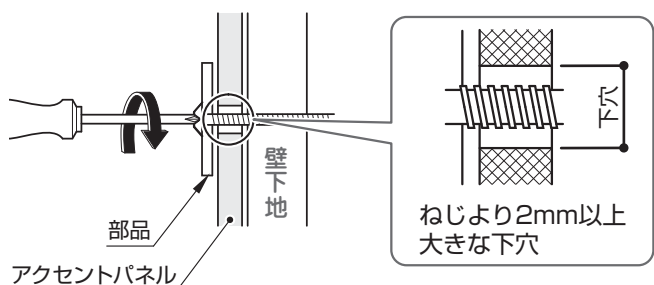
側面壁と接しない場合



⑦ フレーム(アクセントパネル)からはみ出した接着剤があればふき取る

4 リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップの取り付け

① リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップ用の穴を開ける



注意

- 下穴は固定ねじ径より大きく開ける
ねじ締め時にアクセントパネル表面にひびが入るおそれがあります。
- 下穴は壁下地まで貫通させない
ねじがきかなくなります。

② リモコンハンガー、手すり、ハンドグリップを取り付ける

リモコンハンガー

参照 ウォシュレットの施工説明書を参照してください。

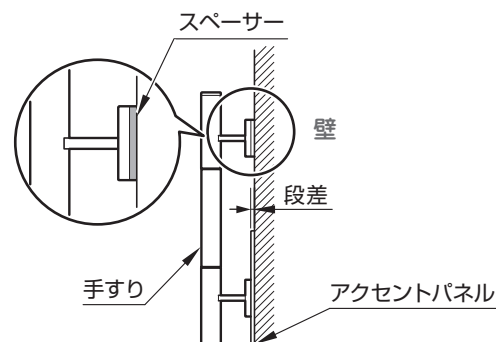
注意

アクセントパネル本体内部にリモコン本体が収まるよう設置する

アクセントパネルをまたぐようにリモコン本体を設置すると、リモコン本体が外れるおそれがあります。

手すり

参照 手すり、スペーサーの施工説明書を参照してください。



注意

段差を解消するため、スペーサーを必ず入れる

アクセントパネルの厚み分の段差が生じ、手すりが外れるおそれがあります。

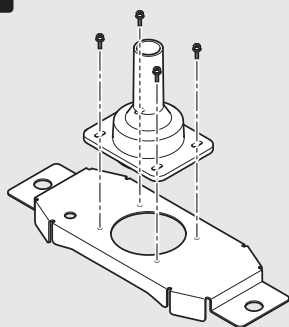
ハンドグリップ

参照 ハンドグリップの施工説明書を参照してください。

11.手洗器・水栓金具

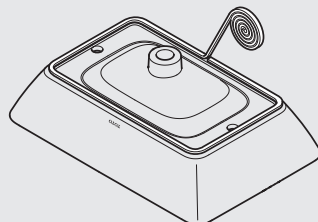
手洗器なしの場合はP.87へ

1 排水ソケットの組み付け



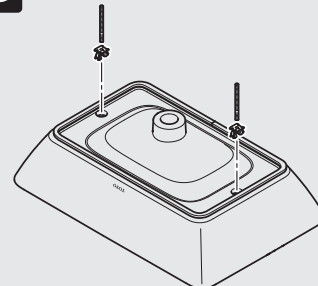
▶P.77

2 クッション材の張り付け



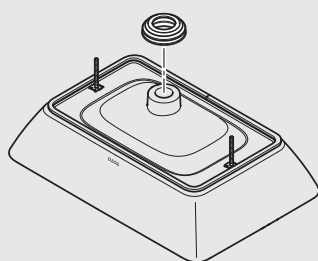
▶P.77

3 手洗器の組み立て



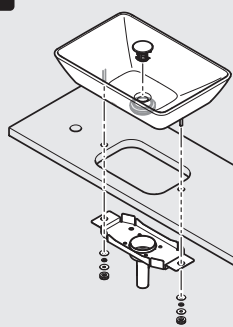
▶P.78

4 パッキン(排水口)の取り付け



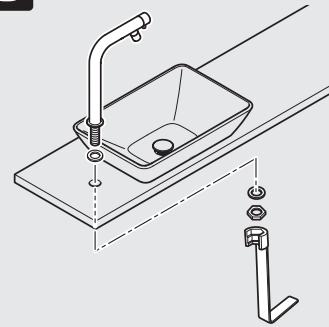
▶P.78

5 手洗器の取り付け



▶P.79

6 水栓金具の取り付け

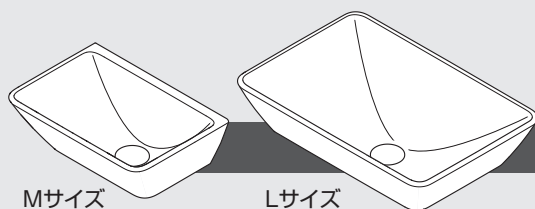


▶P.80

手洗器の種類と、手順を確認して施工してください。

※手洗器の種類で手順が異なります。

手洗器、各手順について

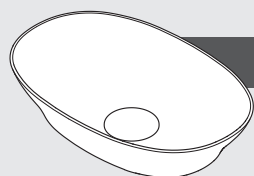


Mサイズ

Lサイズ

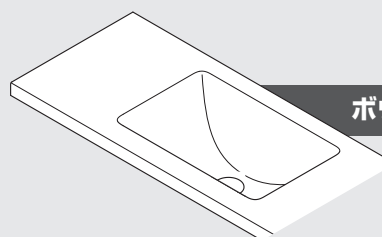
ベッセルタイプ(角形)(M サイズ / L サイズ)の場合

1 ▶ 2 ▶ 3 ▶ 4 ▶ 5 ▶ 6



ベッセルタイプ(丸形)の場合

2 ▶ 3 ▶ 5 ▶ 6



ボウル一体タイプの場合

5 ▶ 6

1 排水ソケットの組み付け

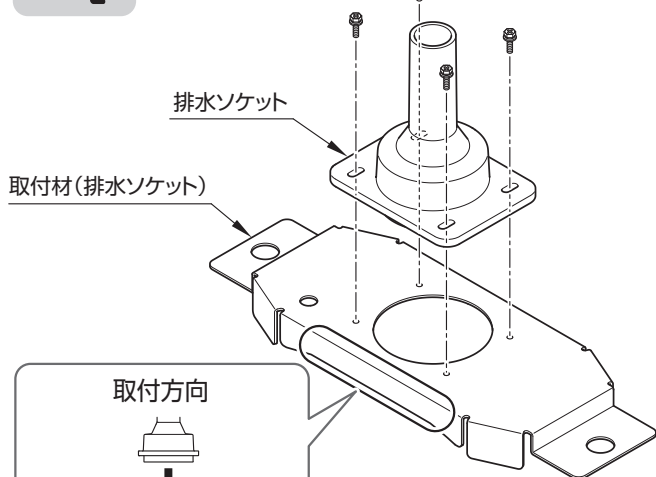
ベッセルタイプ(角形)(Mサイズ/Lサイズ)の場合

※図はLサイズの場合

手締めで



十字穴付座金組込
なべ小ねじ
(M4×12、鉄)(4本)



取付方向



折り曲げ方向と逆の面に
排水ソケットを取り付ける



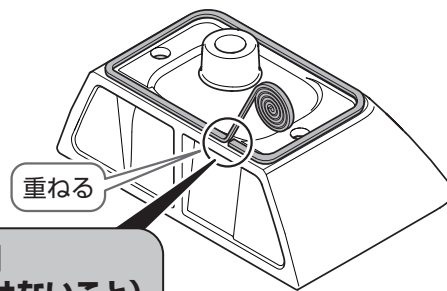
必ず守る

取付後、排水ソケットと取付材(排水ソケット)の
間にすき間がないことを確認する

水漏れして家財などをめらす財産損害の発生の原因
になります。

ベッセルタイプ(角形)(Mサイズ)の場合

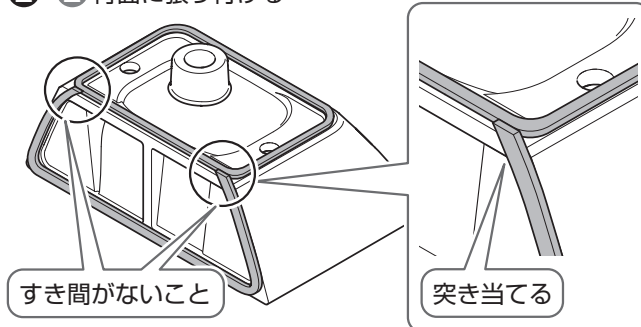
②-① 底面全周に張り付ける



注意

繋ぎ目は裏側
(すき間をあけないこと)

②-② 背面に張り付ける



ベッセルタイプ(丸形)の場合

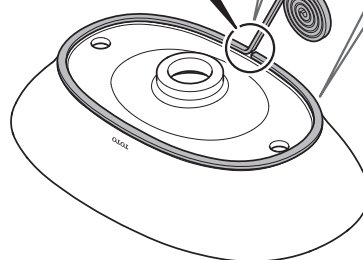
参照 同梱の施工説明書を参照してください。

注意

繋ぎ目は裏側
(すき間をあけないこと)

底面全周に張り付ける

重ねる



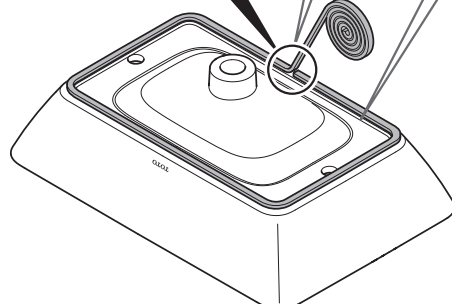
ベッセルタイプ(角形)(Lサイズ)の場合

注意

繋ぎ目は裏側
(すき間をあけないこと)

底面全周に張り付ける

重ねる



2 クッション材の張り付け

① 張り付け面の汚れ・ホコリなど十分にふき取る

② クッション材のセパレータをはがしながら、
右記の位置にクッション材を張り付ける



注意

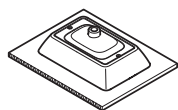


必ず守る

クッション材の張り付けは確実に
水などが浸入してコンセントにかかり、火災や感電
の原因となります。

注意

- 手洗器上面を下側にする
際は、段ボールなどを敷く
手洗器に傷が付かないように
してください。
- 手洗器の内側コーナー
部にあわせて張り付ける
設置後にクッション材がはみ出す
ことがあります。

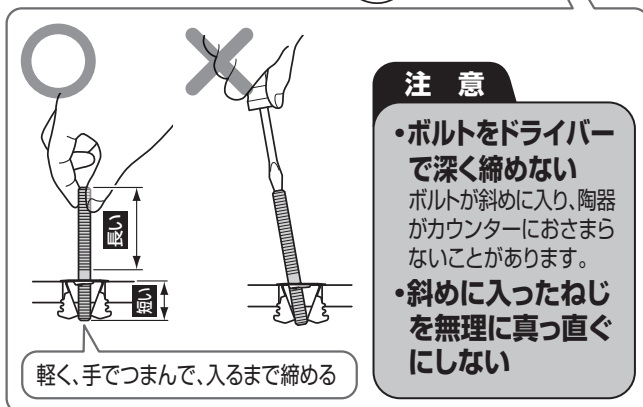
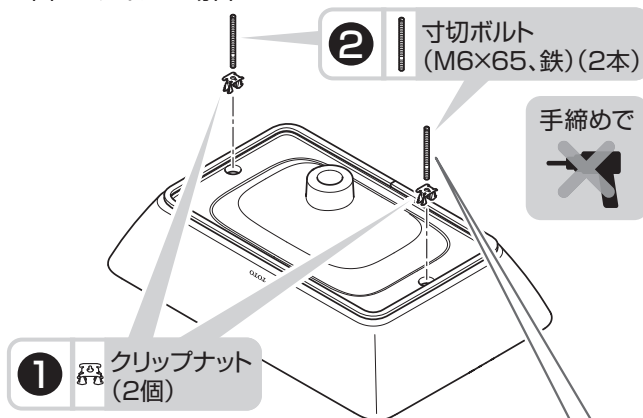


クッション材
内側コーナー部
にあわせる

3 手洗器の組み立て

ベッセルタイプ(角形)(Mサイズ/Lサイズ)の場合

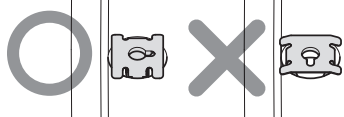
※図はLサイズの場合



注意

• 平らな面にクリップナットを取り付ける

クリップナットが奥まで入らず、手洗器に適合しません。



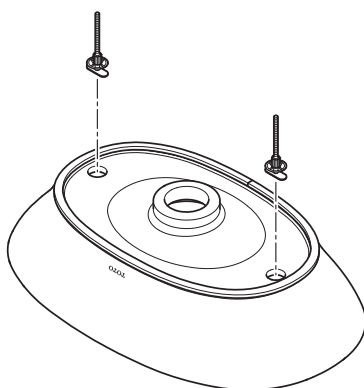
• 陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

寸切ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



ベッセルタイプ(丸形)の場合

参照 同梱の施工説明書を参照してください。

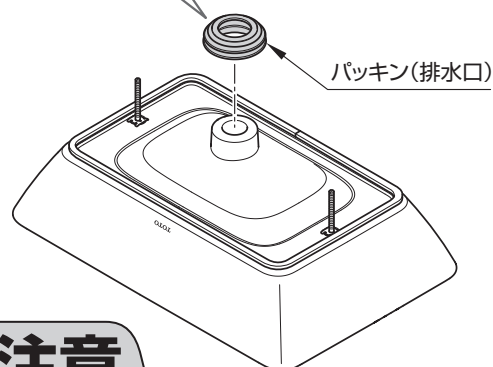
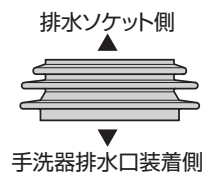


4 パッキン(排水口)の取り付け

ベッセルタイプ(角形)(Mサイズ/Lサイズ)の場合

※図はLサイズの場合

手洗器排水口外周の汚れを取り除き、装着する



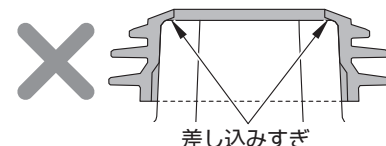
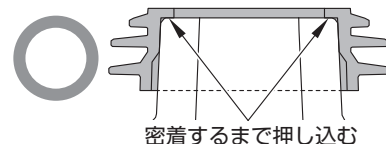
! 注意



パッキン(排水口)にグリスを使用しない
劣化し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。



パッキン(排水口)は手洗器排水口に
密着するまで押し込む
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。



5 手洗器の取り付け

ベッセルタイプ(角形) (Mサイズ)の場合

注意

バックパネル(オプション)の取り付けは、手洗器固定前に行う

参照 バックパネルの施工説明書

注意

手洗器を壁に押し当てる

2 目皿を取り付ける

取付材(排水ソケット)

ばね座金 (M6) (2個)

平座金 (M6) (4個)

1 ボルトの先端が見えるまでローレットナットを入れる

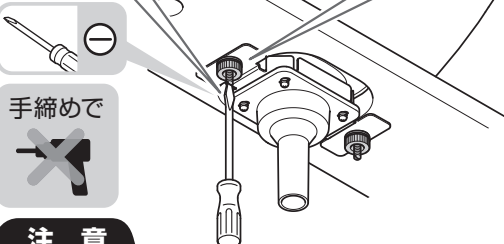
ローレットナット (M6) (2個)

注意

パッキン(排水口)がセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

3 しっかりボルトを締め込む
※締め付け時、陶器との摩擦音が発生することがあります。

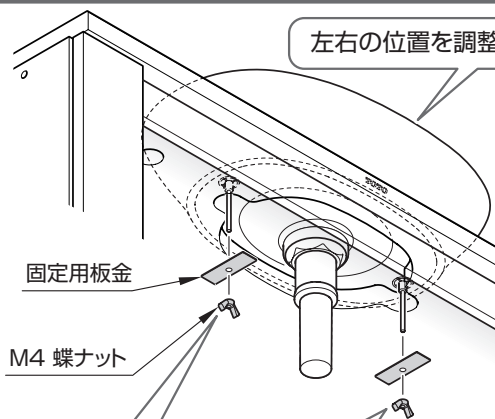
4 ローレットナットをしっかりと締め付ける



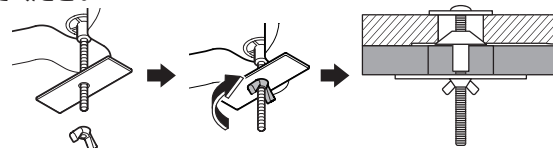
注意

- ボルトができるだけ真っ直ぐ入るよう、手を沿えて締め込む
※若干斜めになっても、ローレットナットの締め付けができれば問題ありません。
- ローレットナットの締め込み後、必ず陶器にがたつきがないことを確認する

ベッセルタイプ(丸形)の場合



取付ボルト2カ所へ固定用板金を当て、蝶ナットで締め付けてください



ベッセルタイプ(角形) (Lサイズ)の場合

2 目皿を取り付ける

取付材(排水ソケット)

ばね座金 (M6) (2個)

平座金 (M6) (4個)

1 ボルトの先端が見えるまでローレットナットを入れる

ローレットナット (M6) (2個)

注意

パッキン(排水口)がセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

- ③** しっかりボルトを締め込む
※締め付け時、陶器との摩擦音
がなることがあります。

- ④** ローレットナット
をしっかり締め
付ける



手締めで

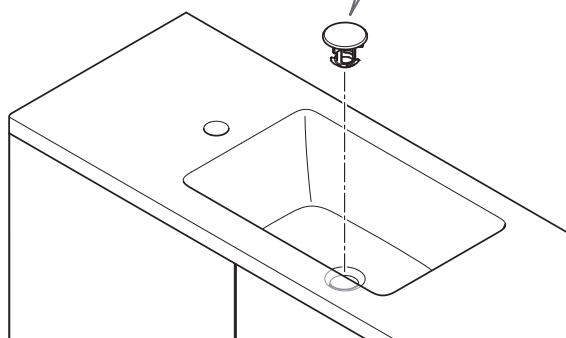


注意

- ボルトができるだけ真っ直ぐ入るよう、手を沿えて締め込む
※若干斜めになっても、ローレットナットの締め付けができれば問題ありません。
- ローレットナットの締め込み後、必ず陶器にがたつきがないことを確認する

ボウル一体タイプの場合

- ①** 目皿を取り付ける



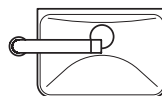
MEMO

6 水栓金具の取り付け

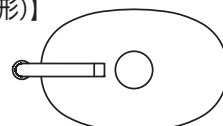
吐水口の向き

※図はハンドル式水栓の場合

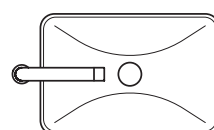
【ベッセルタイプ(角形) (Mサイズ)】



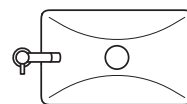
【ベッセルタイプ(丸形)】



【ベッセルタイプ(角形) (Lサイズ)】



【ボウル一体タイプ】

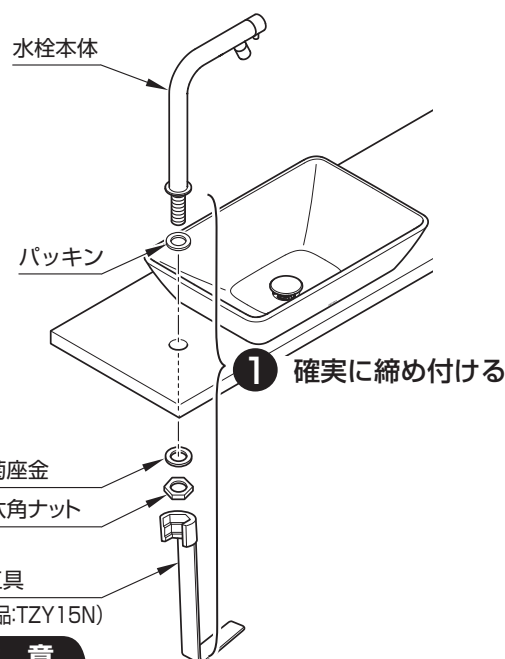


自動水栓の場合

参照 自動水栓の施工説明書を
参照してください。



ハンドル式水栓の場合



TZ工具
(別売品: TZY15N)

注意

- 水栓本体が動かないことを確認
- 六角ナットの締め付けにTZ工具を使用すると作業がしやすくなります。



(別売品: TZY15N)

12.フレキホース・コントローラー・電気温水器 手洗器なしの場合は P.87へ

ハンドル式水栓の場合

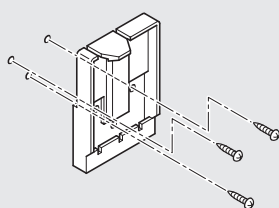
1 フレキホースの取り付け



▶ P.81 壁給水 ▶ P.82 床給水

自動水栓の場合

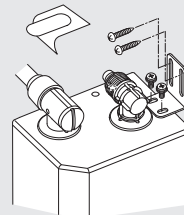
2 コントローラー・機能部・スパウト連結ホースの取り付け



▶ P.83

自動水栓(電気温水器付)の場合

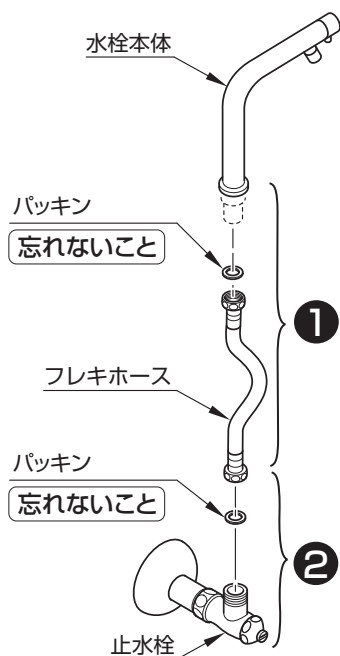
3 電気温水器の取り付け



▶ P.84

1 フレキホースの取り付け

ハンドル式水栓の場合（壁給水）



⚠ 注意



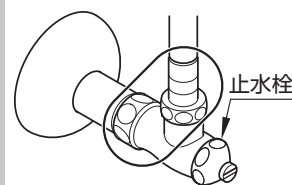
必ず守る

フレキホースは折らない
折れ曲がりによる吐水不良の原因となります。
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

注意

- ・フレキホースを必要以上の力で曲げて折らないように注意する
フレキホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用すると、フレキホースが折れ、十分な流量が出ない場合や破損・水漏れのおそれがあります。
- ・フレキホースを無理に引っ張らない
フレキホースが折れる可能性があります。
- ・給水管の各接続部は増し締めする

水漏れを確認



12

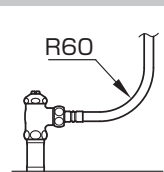
フレキホース・コントローラー・電気温水器

ハンドル式水栓の場合（床給水）

注意

- フレキホースを必要以上の力で曲げて折らないように注意する

フレキホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げると、フレキホースが折れ、十分な流量が出ない場合や破損・水漏れのおそれがあります。

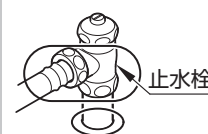


- フレキホースを無理に引っ張らない

フレキホースが折れる可能性があります。

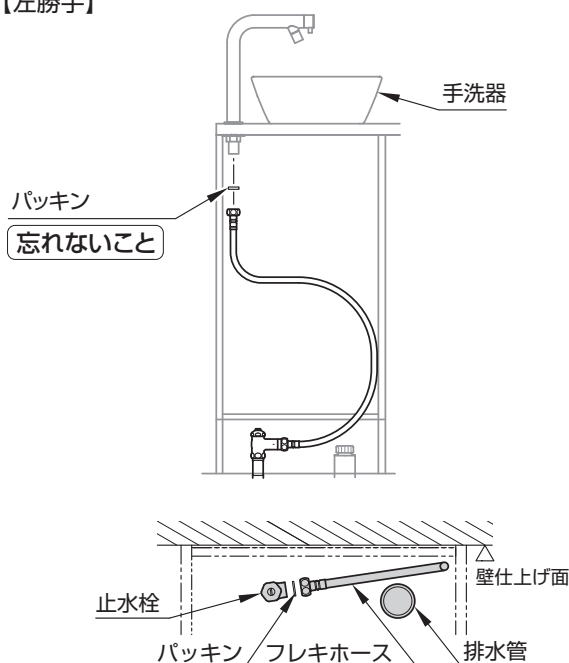
- 給水管の各接続部は増し締めする

水漏れを確認

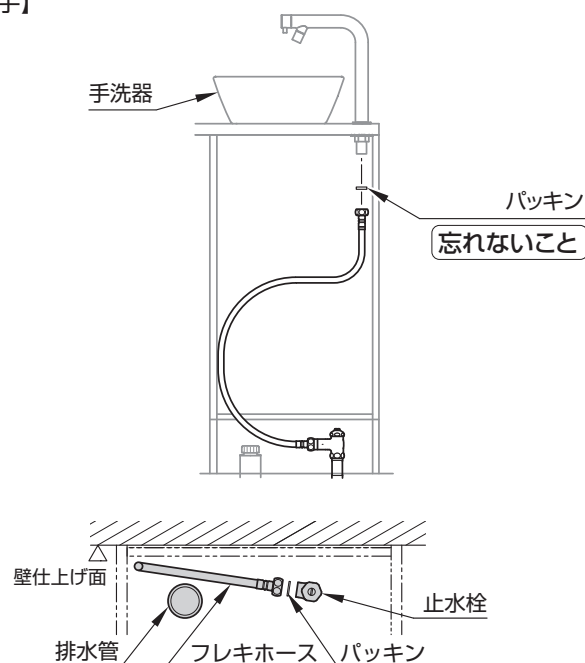


Mサイズの場合

【左勝手】



【右勝手】

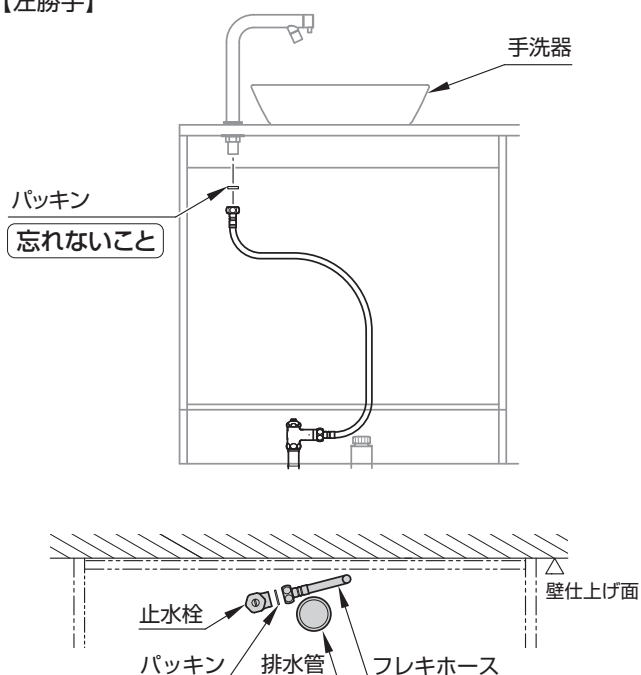


Lサイズの場合

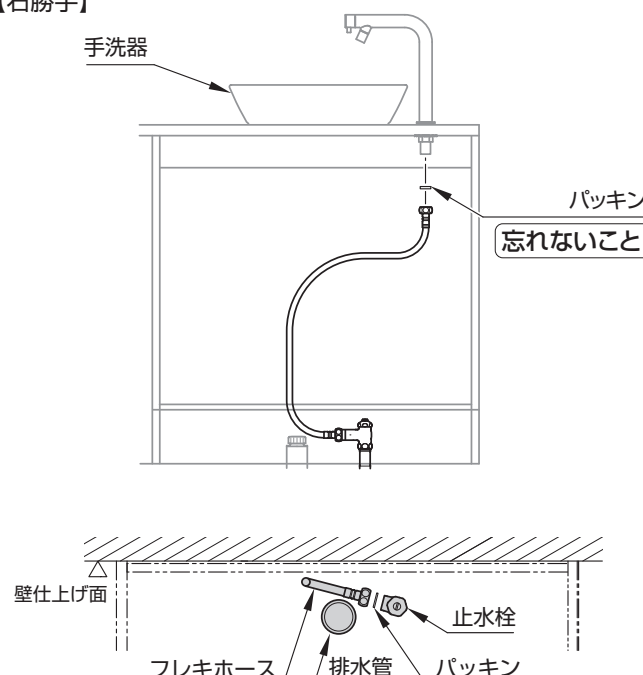
ベッセルタイプ(丸形)、ベッセルタイプ(角形)、ボウル一体タイプとも共通です。

※図はベッセルタイプ(角形)

【左勝手】



【右勝手】



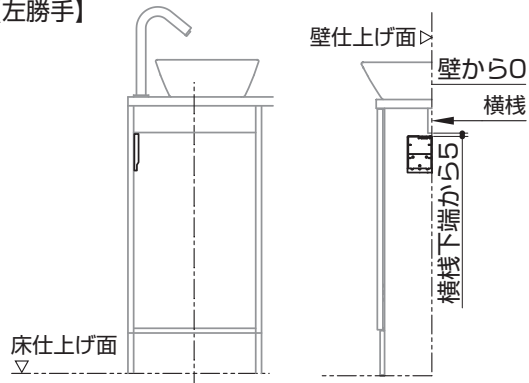
自動水栓の場合

2 コントローラー・機能部・スパウト連結ホースの取り付け

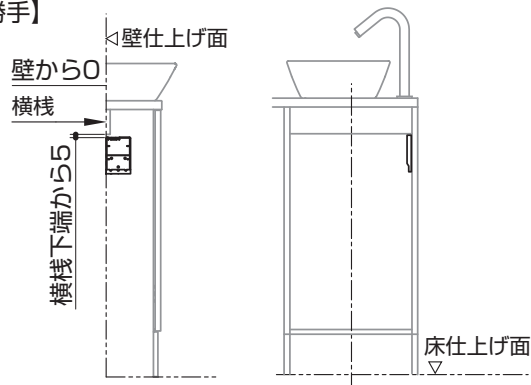
コントローラー固定材取付位置

Mサイズの場合

【左勝手】

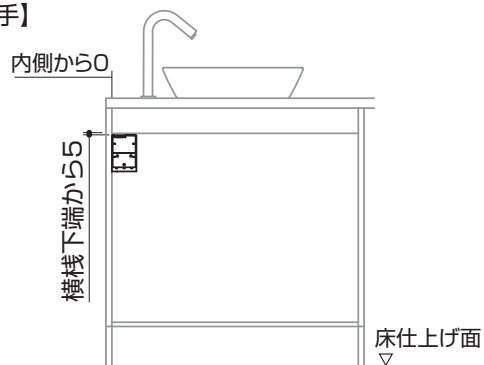


【右勝手】

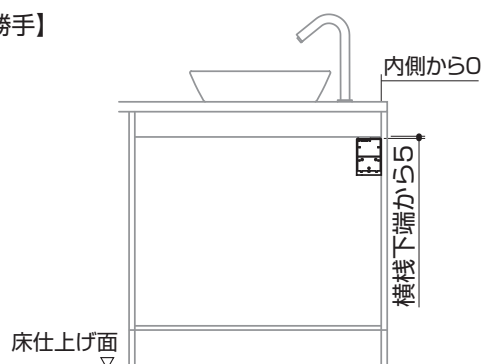


Lサイズの場合

【左勝手】

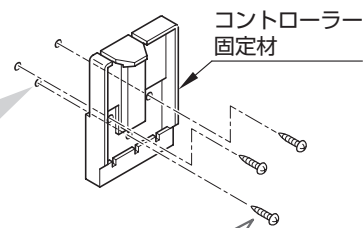


【右勝手】



1

1-1 けがき → 下穴



1-2

【Mサイズの場合】

十字穴付トラス
タッピンねじ
(4×14) (3本)

手締めで

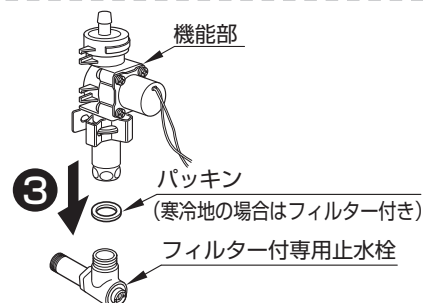
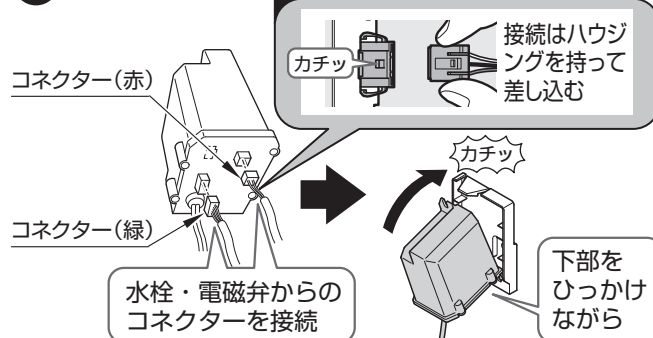


【Lサイズの場合】

十字穴付トラス
タッピンねじ
(4×30) (3本)

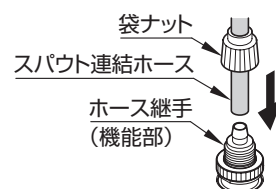
2

注意

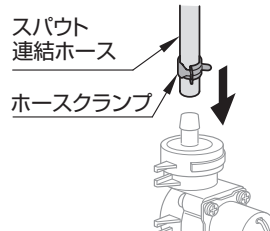


4 スパウト連結ホースを接続する

【寒冷地の場合】



【一般地の場合】



⚠ 注意

- ・スパウト連結ホースを切断する際は、カッターなどを用い、切断面が垂直になるようにする
斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。
- ・スパウト連結ホース接続後、軽く引っ張り抜けにくいこと



自動水栓(電気温水器付)の場合

3 電気温水器の取り付け

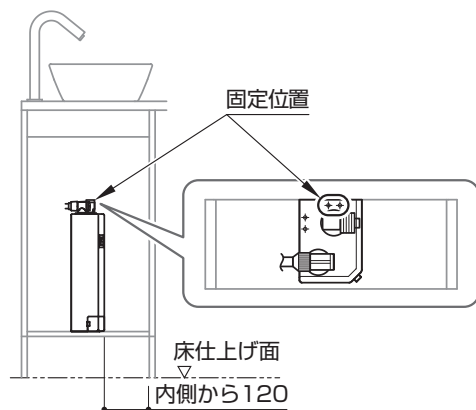
参照 電気温水器の施工説明書を参照してください。
取付位置と機能部の接続については本書を参照
してください。

電気温水器取付位置

電気温水器が付く場合は底板を先に付けてください。
(P.97参照)

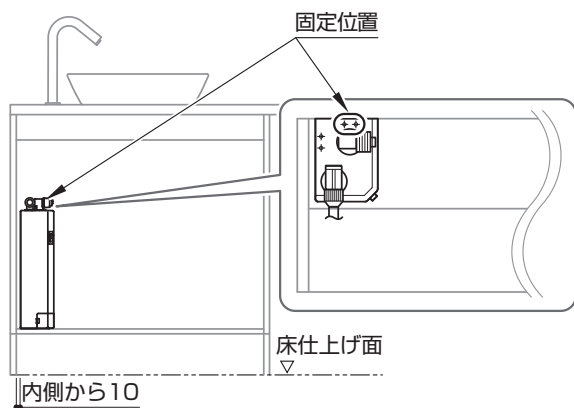
Mサイズの場合

【左勝手・右勝手共通】

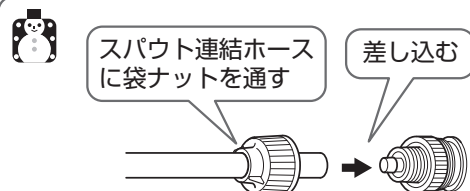
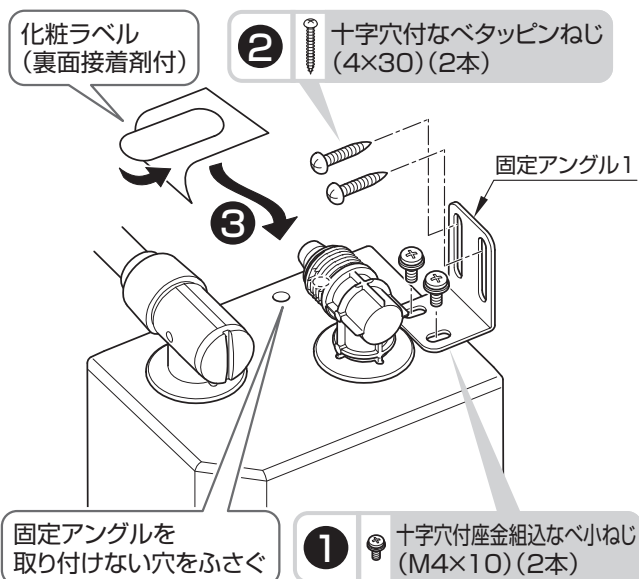
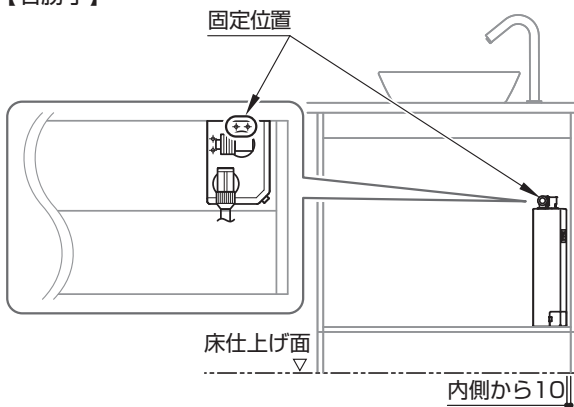


Lサイズの場合

【左勝手】



【右勝手】

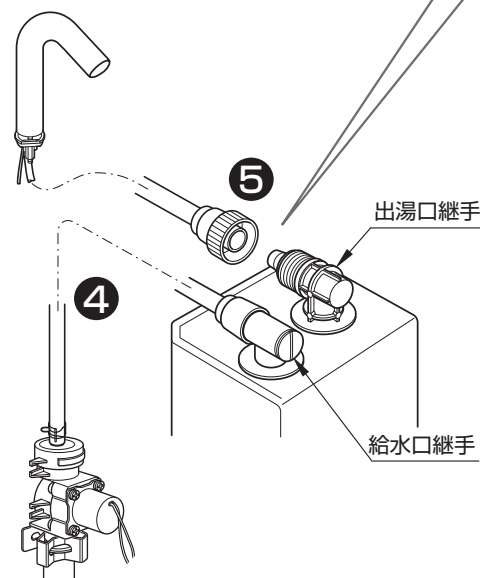


⚠ 注意



必ず守る

- ・スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認する
 - ・スパウト連結ホースが折れ曲がらないよう注意する
- 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生
の原因となります。

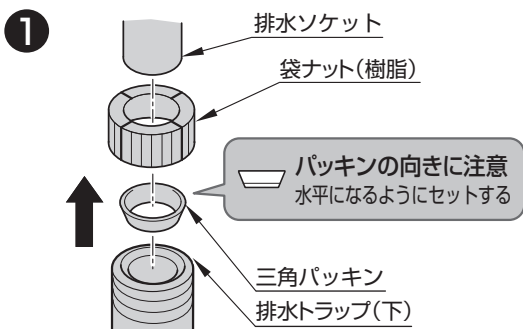


13.排水トラップ

手洗器なしの場合はP.87へ

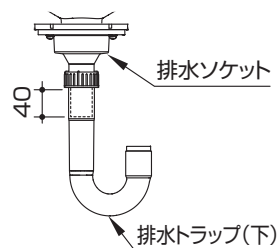
1 排水トラップの取り付け

ベッセルタイプ(角形)、ボウル一体タイプの場合

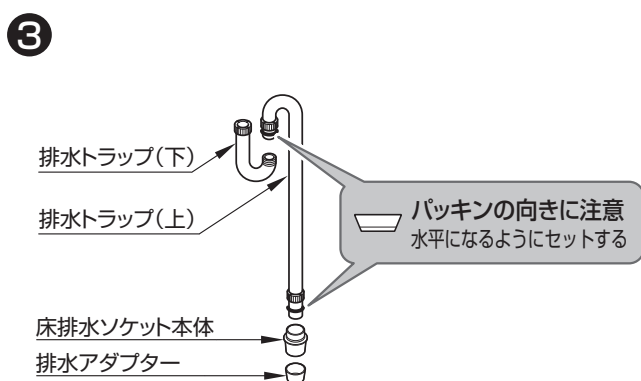
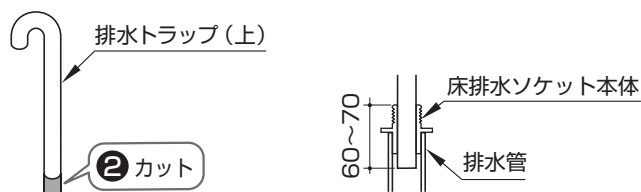


注意

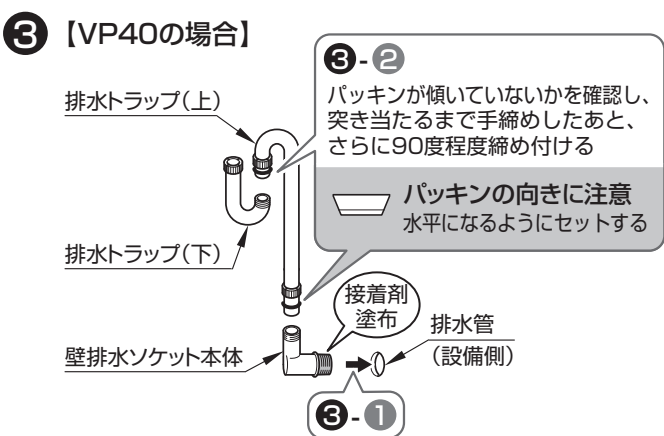
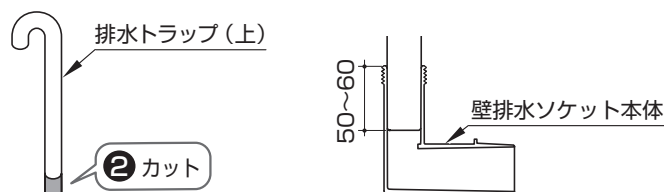
- ・排水ソケットを排水トラップ(下)の奥まで入れる
- ・各部の袋ナットは手で確実に締める
手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに 90 度以上締め付けるのが目安です。



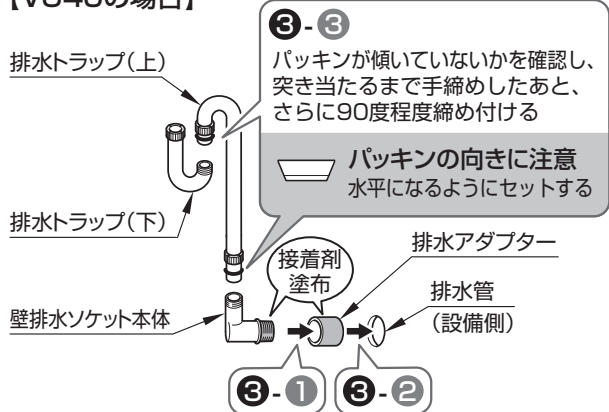
床排水の場合



壁排水の場合

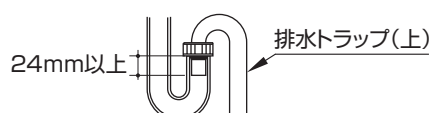


【VU40の場合】



注意

- ・排水トラップ(上)を排水トラップ(下)の奥まで入れる
- ・各部の袋ナットは手で確実に締める
手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに 90 度以上締め付けるのが目安です。

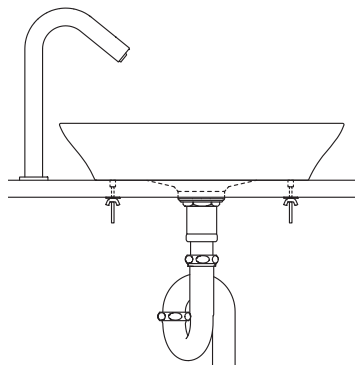
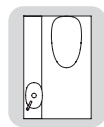


ベッセルタイプ(丸形)の場合

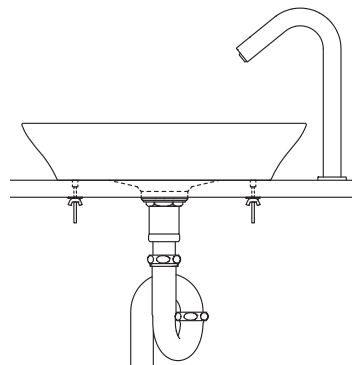
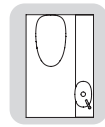
参照 排水金具に同梱の施工説明書もあわせて参照してください。

排水管の取り回し(床排水の場合)

【左勝手】



【右勝手】

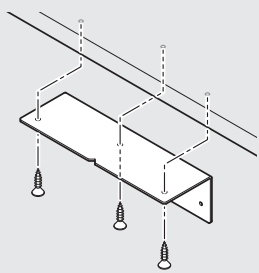


MEMO

14. 紙巻器

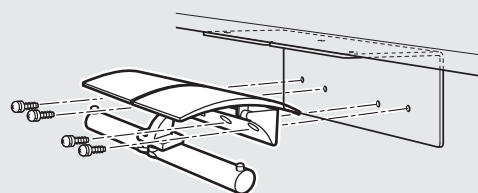
ビルトインリモコンなしの場合

1 取付材(紙巻器)の取り付け



▶P.87

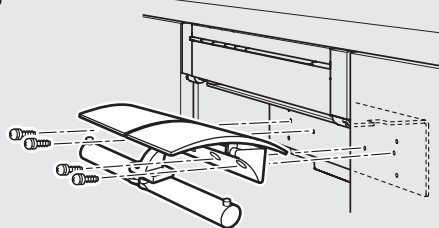
2 紙巻器の取り付け



▶P.88

ビルトインリモコンありの場合

2 紙巻器の取り付け



▶P.89

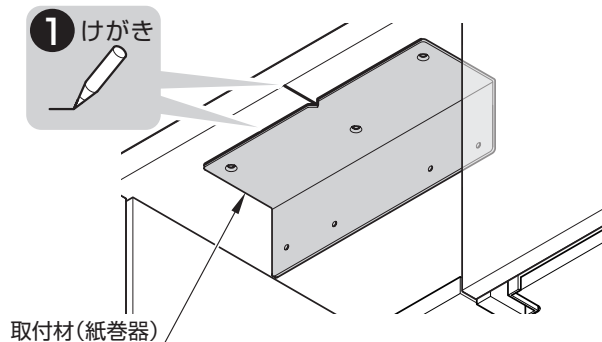
ビルトインリモコンなしの場合

1 取付材(紙巻器)の取り付け

メタル製紙巻器の場合

1 取付材(紙巻器)の位置出しをする

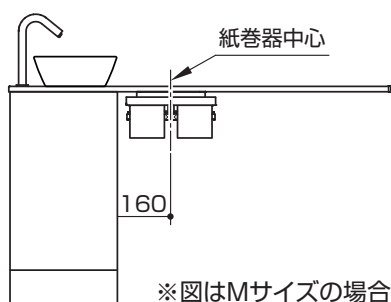
1 けがき



【左右方向】

※サイドキャビネットがある場合
手洗器キャビネットとサイドキャビネットの中心

※サイドキャビネットがない場合



※図はMサイズの場合

【前後方向】

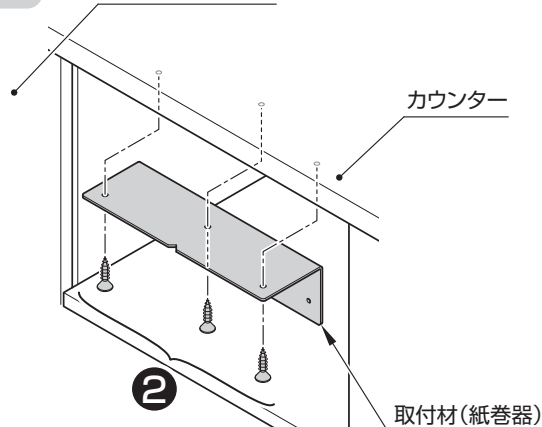
木質製カウンター	マーブライトカウンター クリスタルカウンター
カウンター前端から 取付材(紙巻器)の前端 35 取付材(紙巻器)	裏張材の前端と取付材(紙巻器)の 前端をあわせる 裏張材 取付材(紙巻器) ※図はマーブライトカウンター

手締めで



十字穴付皿タッピンねじ
(4×12) (3本)

手洗器キャビネット



ビルトインリモコンなしの場合

2 紙巻器の取り付け

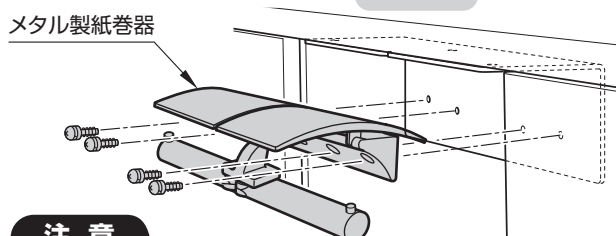
メタル製紙巻器の場合

十字穴付座金組込なべ小ねじ
(M4×8) (4本)

手締めで



メタル製紙巻器



注意



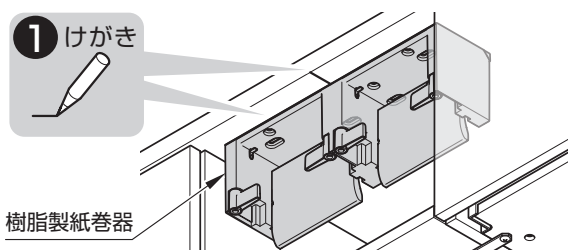
同梱の十字穴付なべタッピンねじ
(4×40) (4本)は使わない

取付材(紙巻器)を破損するおそれがあります。

樹脂製紙巻器の場合

1 紙巻器の位置出しをする

1 けがき



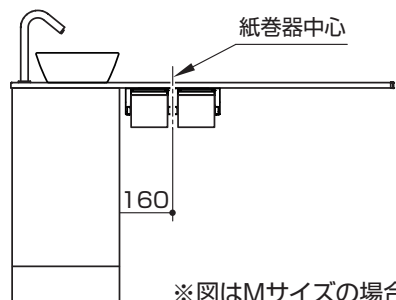
樹脂製紙巻器

【左右方向】

※サイドキャビネットがある場合

手洗器キャビネットとサイドキャビネットの中心

※サイドキャビネットがない場合



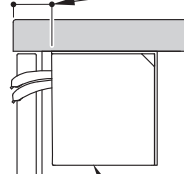
※図はMサイズの場合

【前後方向】

木質製カウンター

カウンター前端から
樹脂製紙巻器の前端

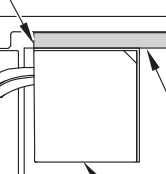
35



樹脂製紙巻器

マープライトカウンター
クリスタルカウンター

裏張材の前端と樹脂製紙巻器の
前端をあわせる

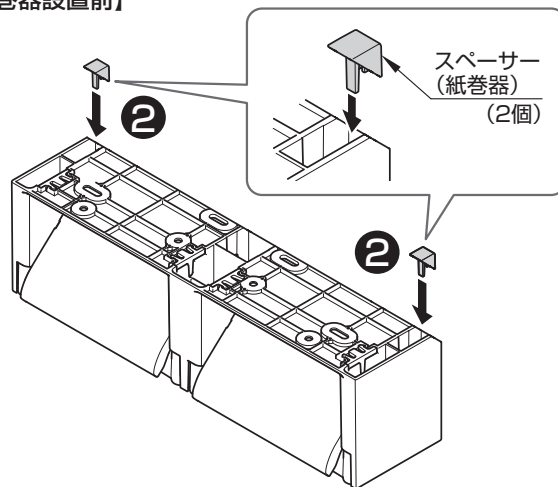


裏張材

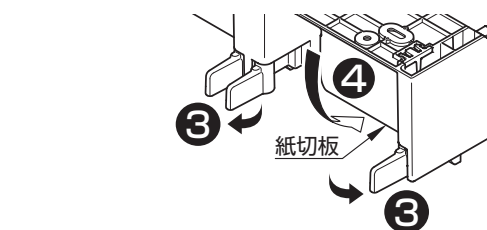
樹脂製紙巻器

※図はマープライトカウンター

【紙巻器設置前】



スペーサー
(紙巻器)
(2個)



紙切板

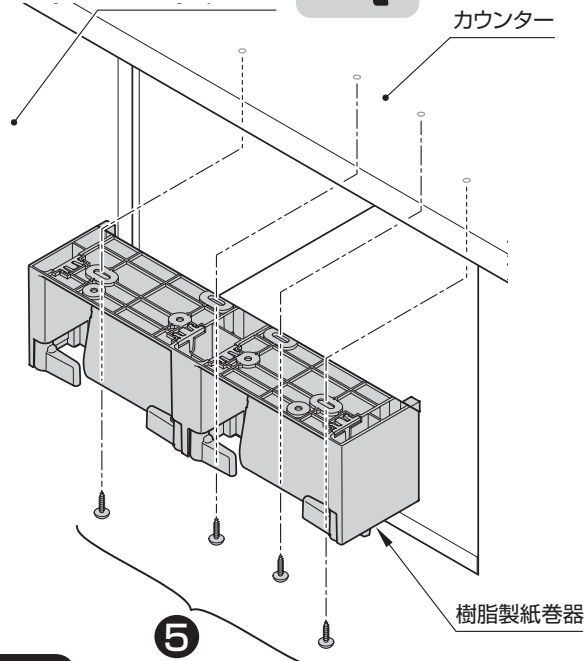
十字穴付トラスタッピンねじ
(4×14) (4本)

手締めで



手洗器キャビネット

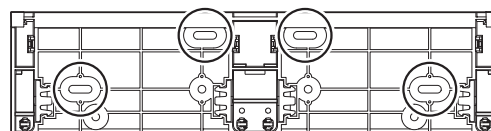
カウンター



樹脂製紙巻器

注意

長穴4カ所を使って固定する

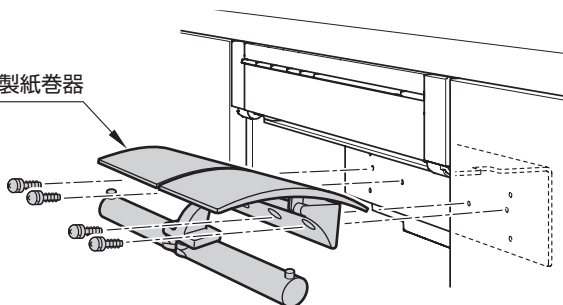


ビルトインリモコンありの場合

メタル製紙巻器の場合

✕ 十字穴付座金組込ナベ小ねじ
(M4×8) (4本)

メタル製紙巻器



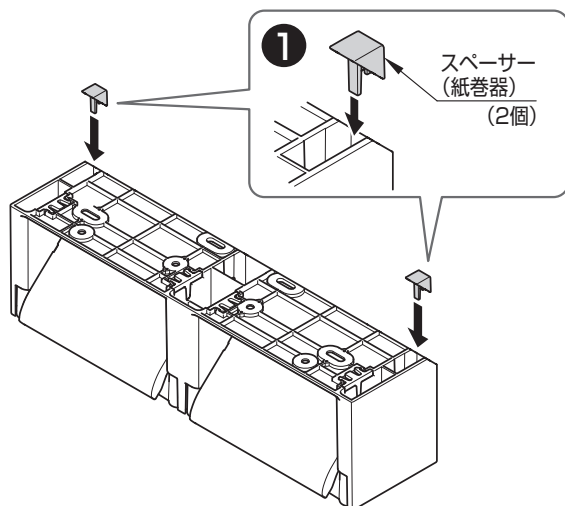
注意



同梱の十字穴付なベタッピンねじ
(4×40) (4本)は使わない

ビルトインリモコンを破損するおそれがあります。

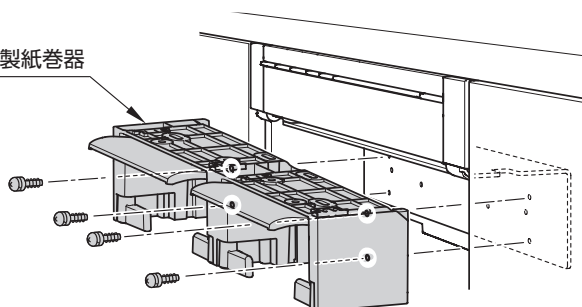
樹脂製紙巻器の場合



2

✕ 十字穴付座金組込ナベ小ねじ
(M4×12) (4本)

樹脂製紙巻器



注意



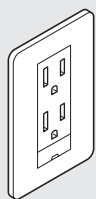
同梱の十字穴付トラスッピンねじ
(4×14) (4本)は使わない

ビルトインリモコンを破損するおそれがあります。

MEMO

15. 試運転・確認

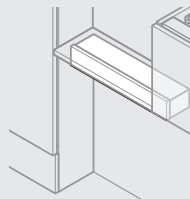
1 電気コンセントの確認



▶ P.90

足元照明ありの場合

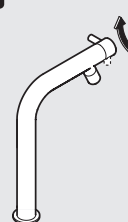
2 足元照明の動作確認



▶ P.91

手洗器ありの場合

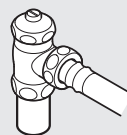
3 吐水の確認



▶ P.91

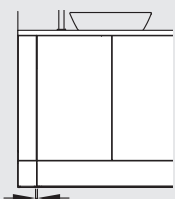
手洗器ありの場合

4 水漏れの確認



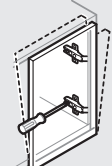
▶ P.92

5 キャビネットのすき間の確認



▶ P.92

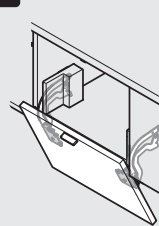
6 前方サイドキャビネット・手洗器キャビネットの調整



▶ P.93

サイドキャビネットが付く場合

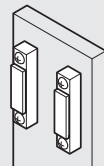
7 スライド扉の調整



▶ P.94

間口調整フィラー(固定)が付く場合

8 間口調整フィラー(固定)の調整



▶ P.96

1 電気コンセントの確認

コンセントに電源プラグを下図を参考に根元まで確実に差し込む。

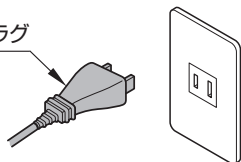
設置位置	設置機器					コンセント	プラグの差し込み位置	
	自動水栓	電気温水器	ビルトインリモコン	足元照明	照明付化粧鏡		下側	上側
手洗器 キャビネット	○	○	○	—	—	 ・接地用端子の付いた 接地極付きの壁埋込 式2口コンセント	電気温水器 ビルトインリモコン	自動水栓
	○	○	—	—	—		電気温水器	自動水栓
	○	—	○	—	—	 ・壁埋込式2口コンセント	ビルトインリモコン	自動水栓
	○	—	—	—	—	 ・壁埋込式1口コンセント		自動水栓
	—	—	○	—	—			ビルトインリモコン
間口調整 フィラー (固定)	—	—	—	○	—	 ・壁埋込式1口コンセント		足元照明
化粧鏡裏	—	—	—	—	○			照明付化粧鏡

足元照明ありの場合

2 足元照明の動作確認

① 電源プラグを差し込む

足元照明用電源プラグ



② 点灯確認

大便器に近づいて行くことで、足元照明が点灯することを確認してください。(確認は、トイレの外に出てトイレのドアを閉め、100秒以上経過した後に実施)

【点灯しないとき】

部材の接続を再度確認してください。

・センサーの取り付け ▶ P.51

・中継ハーネスの取り付け ▶ P.52

・LED照明ユニットの組み立て ▶ P.56

手洗器ありの場合

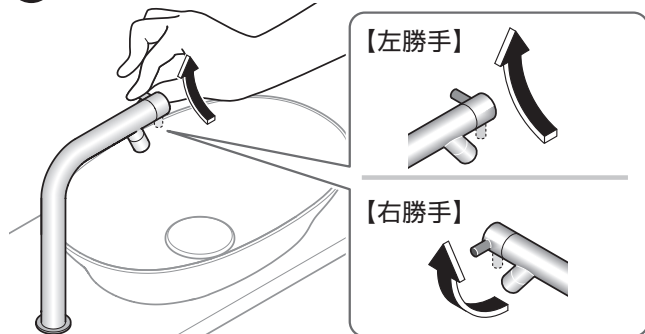
3 吐水の確認

参照 自動水栓・電気温水器の確認は、それぞれに同梱の施工説明書を参照してください。

ハンドル式水栓の場合

① 止水栓が閉まっていることを確認する

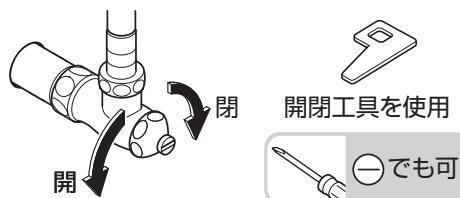
② ハンドルを全開にする



※図はベッセルタイプ(丸形)の場合

③ 適切な流量になるまで、少しずつ止水栓を開ける

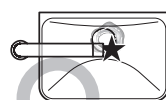
水の勢いが強すぎて衣服などをぬらすおそれがある場合は、止水栓を回して、流量を調整してください。



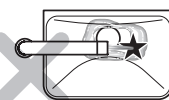
★ 水があたる位置

【Mサイズ】

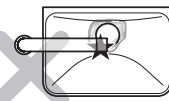
・ベッセルタイプ(角形)の場合



流量が多い

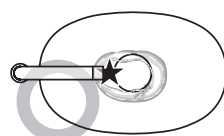


流量が少ない

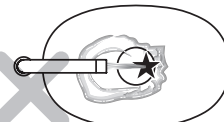


【Lサイズ】

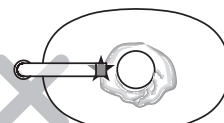
・ベッセルタイプ(丸形)の場合



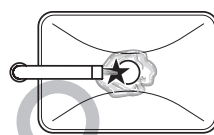
流量が多い



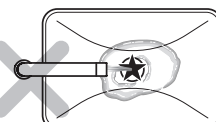
流量が少ない



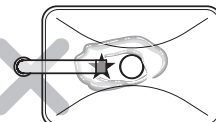
・ベッセルタイプ(角形)の場合



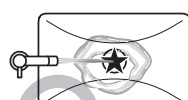
流量が多い



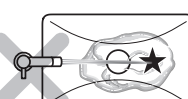
流量が少ない



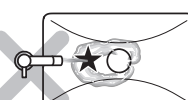
・ボウル一体タイプの場合



流量が多い



流量が少ない



注意

流量は必ず調整する

- ・流量が多いと使用時に水はねして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- ・流量が少ないと複数個所の同時吐水時に流量不足となる場合があります。



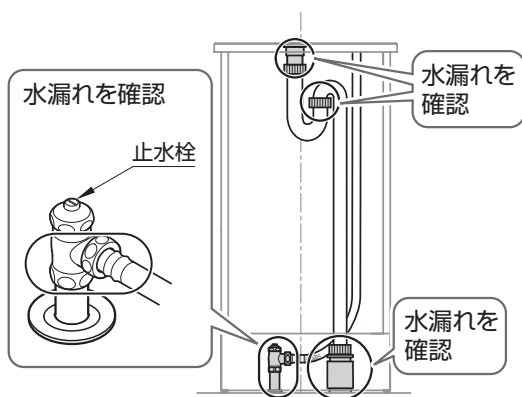
必ず守る

手洗器ありの場合

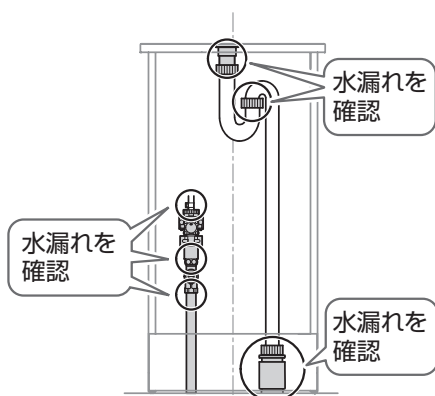
4 水漏れの確認

※図は床給水、床排水の場合

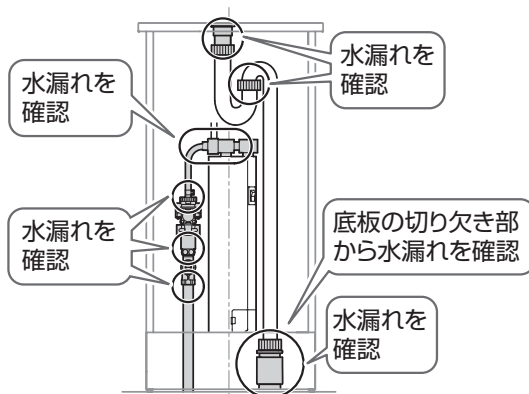
ハンドル式水栓の場合



自動水栓の場合



自動水栓（電気温水器付）の場合



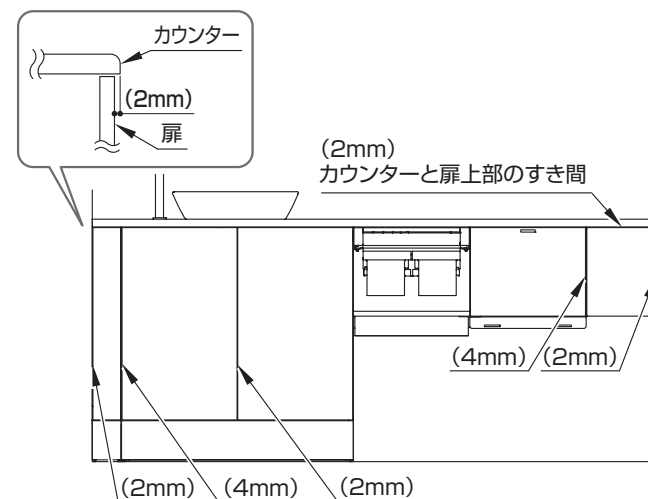
5 キャビネットのすき間の確認

すき間の調整は、

▶P.93「6 前方サイドキャビネット・

手洗器キャビネット扉の調整」、

▶P.94「7 スライド扉の調整」、

▶P.96「8 間口調整フィラー(固定)の調整」
を参照

※図はLサイズ、ハーフキャビネットの場合

注 意

【間口調整フィラー(固定)がある場合】

間口調整フィラーを基準にして各扉を調整する。

【間口調整フィラー(固定)がない場合】

サイドキャビネットまたは手洗器キャビネットを基準にして
各扉を調整する。

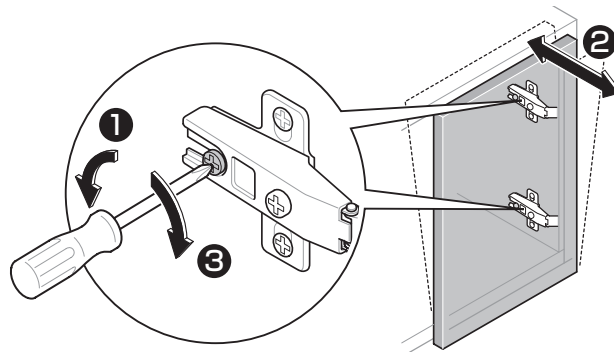
6 前方サイドキャビネット・手洗器キャビネット扉の調整

キャビネット扉の調整

前後を調整する場合（右開き）

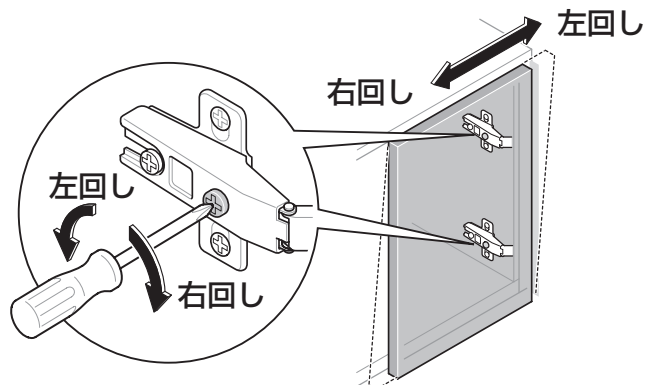
- ① ゆるめる（左回し）
- ② 扉を動かす
- ③ しめる（右回し）

※左開きも同様です。



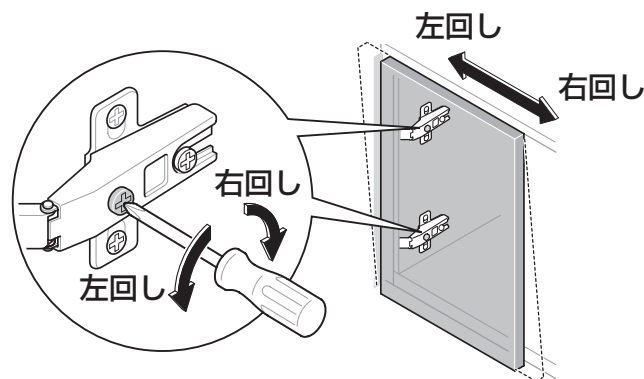
左右を調整する場合（右開き）

ねじを回すと、扉が動く



左右を調整する場合（左開き）

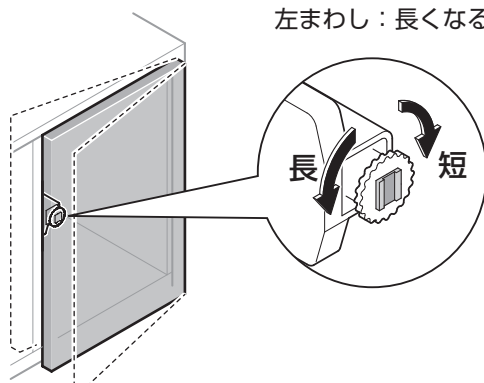
ねじを回すと、扉が動く



プッシュラッチの調整

前後を調整する場合

右まわし：短くなる
左まわし：長くなる



緩衝材の張り付け

扉を開けた時、壁などと当たる場合は張り付ける



「施工説明書」に同梱
緩衝材

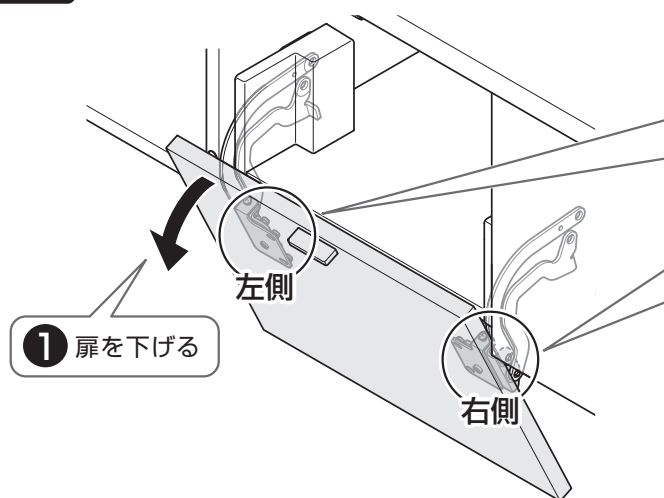
※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

ポイント

張付面は水拭きし、乾燥後張り付ける

ハーフキャビネットの場合

7 スライド扉の調整

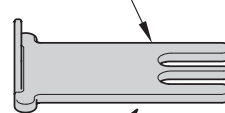


2 スペースを取り外す

【扉裏面を上から覗き込んだ場合】

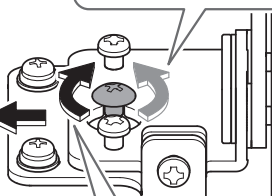
※図は右側の場合

スペース



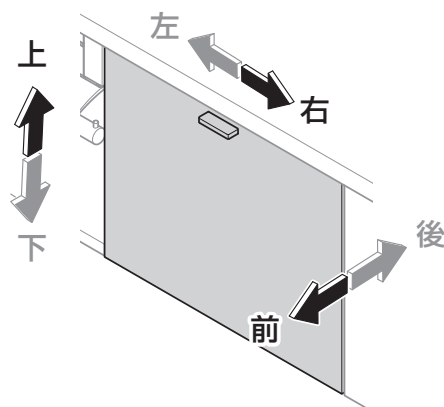
2 スペースを外す
外したスペースは
使用しない

1 ねじをゆるめる

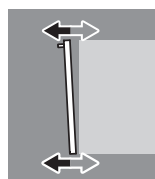


3 ねじを締め付ける

3 扉の調整を行う(前後・左右・上下)

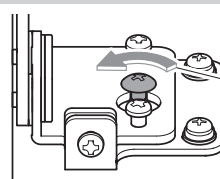


前後に動かす場合

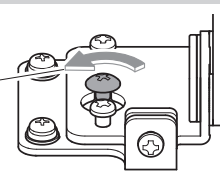


左側

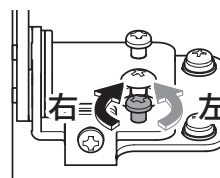
右側



1 少しゆるめる



【上側を動かす場合】

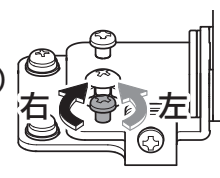


2 ねじを調整する

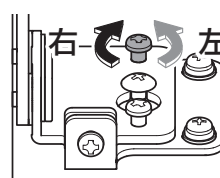
(右回し: 扉が前に動きます)

(左回し: 扉が後ろに動きます)

3 1のねじを締め付ける



【下側を動かす場合】

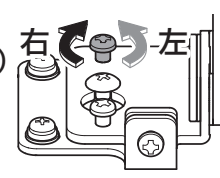


2 ねじを調整する

(右回し: 扉が前に動きます)

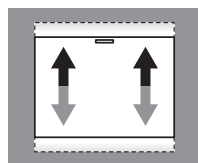
(左回し: 扉が後ろに動きます)

3 1のねじを締め付ける



※スライド扉全体を前後に動かす場合は、上側・下側を同時に動かします。

上下に動かす場合



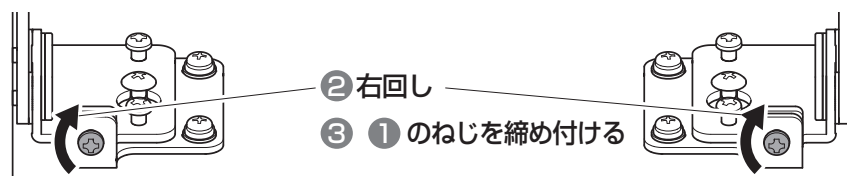
左側

右側



① 少しゆるめる

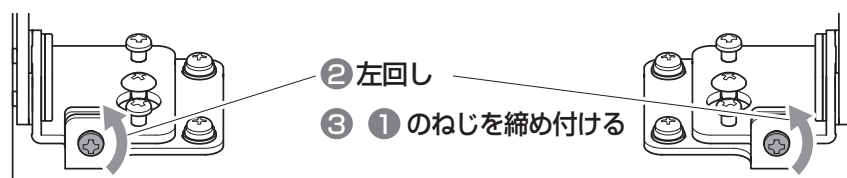
【上に動かす場合】



② 右回し

③ ① のねじを締め付ける

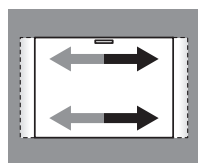
【下に動かす場合】



② 左回し

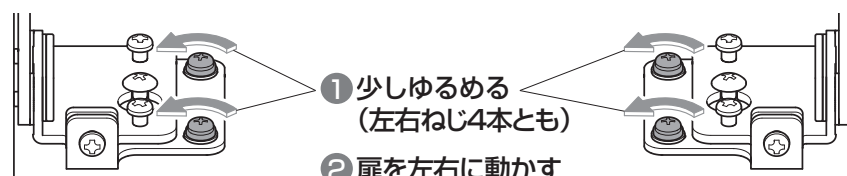
③ ① のねじを締め付ける

左右に動かす場合



左側

右側



① 少しゆるめる
(左右ねじ4本とも)

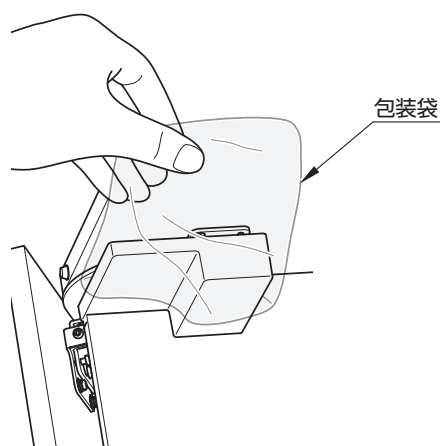
② 扉を左右に動かす



③ 締め付ける

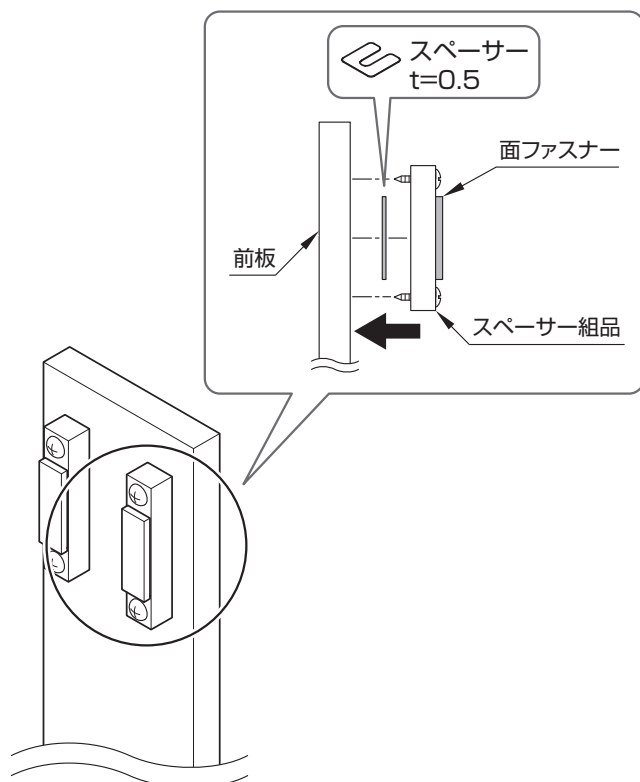
④ カバー (アーム) の包装袋を取り外す

扉調整後、カバー (アーム) の包装袋を取り外す。
※扉調整前は包装袋を外さないこと

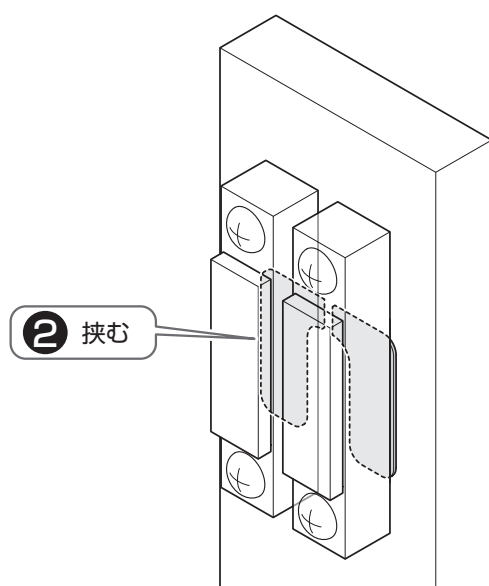
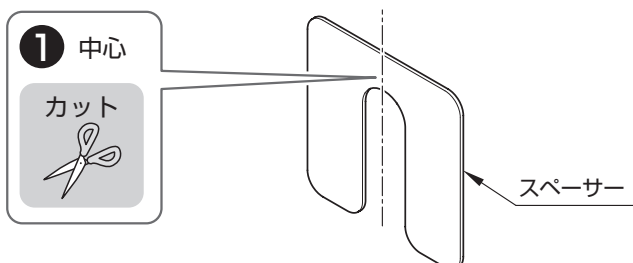


8 間口調整フィラー(固定)の調整

前板とスペーサー組品の間にスペーサーを挟み、
前板の前後調整をする



前板の幅が狭い場合



MEMO

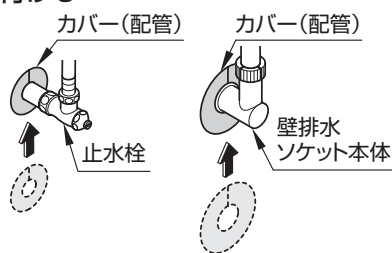
16.カバー(配管)

手洗器なしの場合はP.98へ

1 カバー(配管)の張り付け

壁給水・壁排水の場合

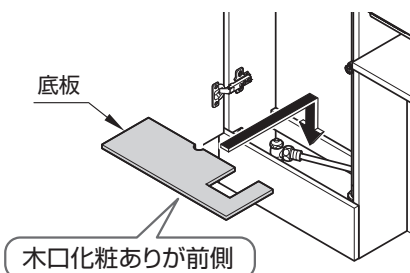
- ① 背板と給水・排水接続部にカバー(配管)を張り付ける



床給水・床排水の場合

- ① 底板を置く

※図はMサイズの場合

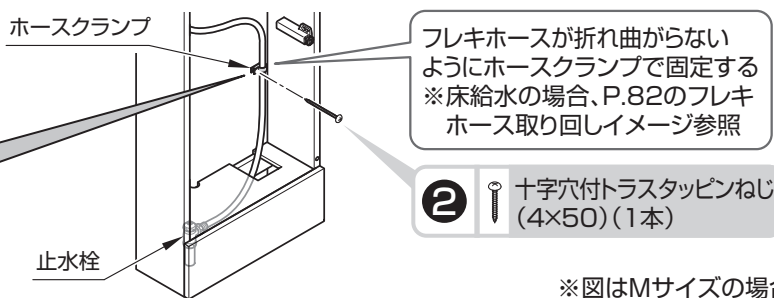


ハンドル式水栓	床・壁給水／床排水	壁給水／壁排水	—
自動水栓	壁給水／床排水	壁給水／壁排水	床給水／床排水
底板の形状	①	②	③

ハンドル式水栓の場合

注意

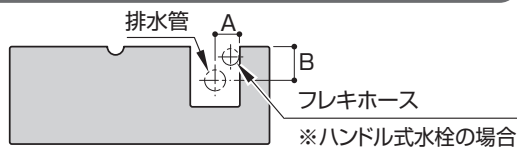
- ・ホースクランプ固定はねじ位置を背板側にする
- ・フレキホースと底板が干渉しないように固定する
底板が取り外しにくくなります。



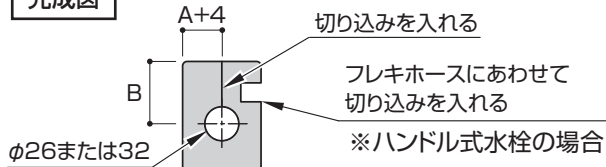
※図はMサイズの場合

- ③ 底板の形状が①③の場合、給排水管位置を測り、カバー(配管)をカットする

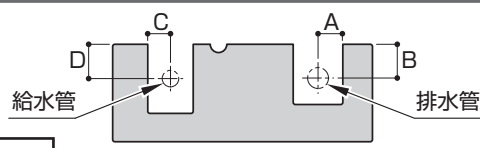
底板の形状①の場合



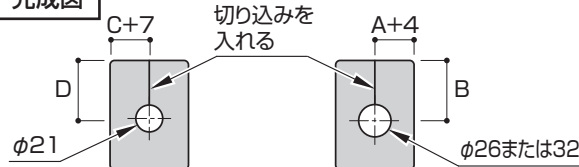
完成図



底板の形状③の場合



完成図

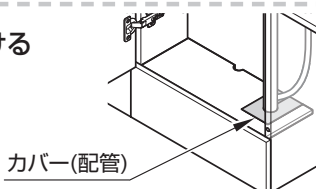


参考

排水管径:φ26、φ32(ベッセルタイプ(丸形)の場合)／給水管径(自動水栓の場合):φ21／フレキホース径(ハンドル式水栓の場合):φ12

- ④ 底板にカバー(配管)の剥離紙をはがして張り付ける

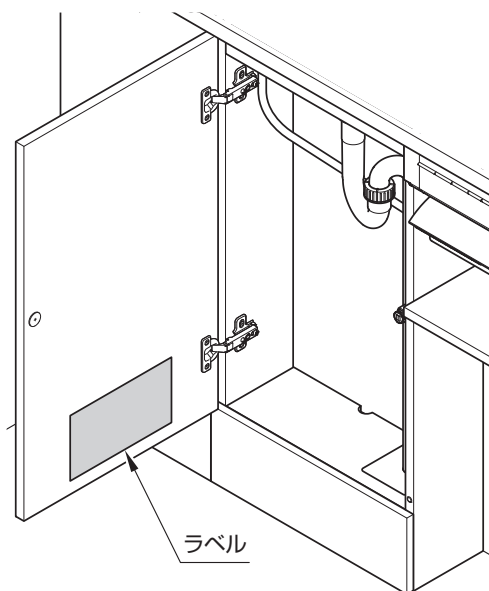
※電気温水器付きの場合は、底板内に漏水がないことを確認してからカバー(配管)を張り付けてください



17.ラベル

1 ラベルの張り付け

① 扉裏面にラベルを張り付ける

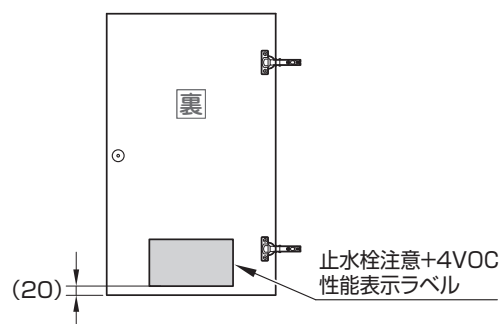


※図はMサイズの場合

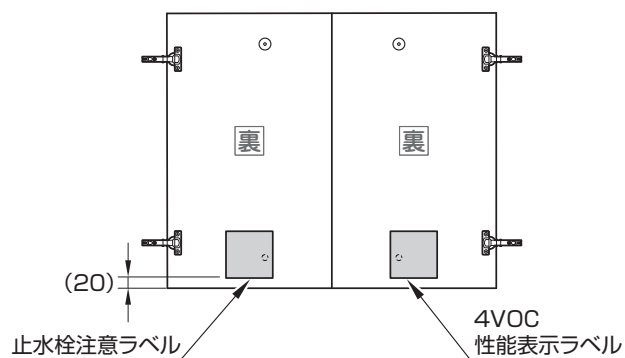
ラベル張り付け位置

図の位置（扉中央下部）にラベルを張り付ける

Mサイズ



Lサイズ



注 意

扉の穴を隠すようにラベルを張り付ける

MEMO

18.シリコン系シール剤

1 シリコン系シール剤の塗布

警告

シリコン系シール剤の塗布(コーキング)は確実に行う
水などがキャビネット内に浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

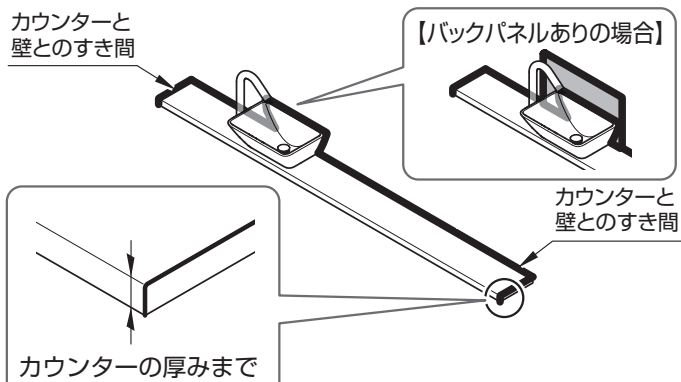
※ジョイントコークなどの水溶性のコーキングは使用しないでください。

※TOTOおすすめシリコン系シール剤(別途手配)

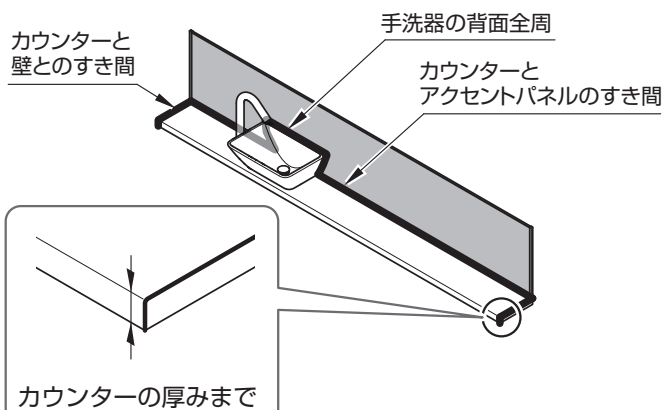
メジシール(クリア)：YG903S

Mサイズ

【アクセントパネルなしの場合】

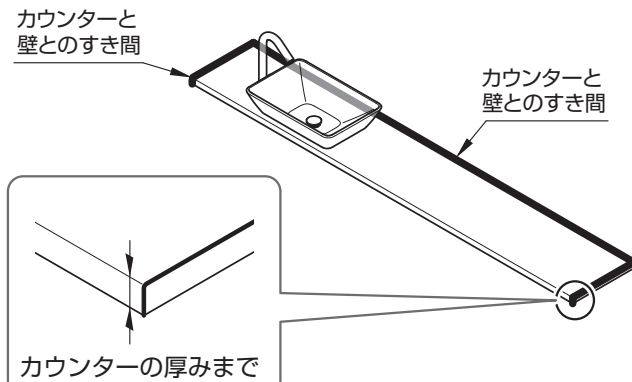


【アクセントパネルありの場合】

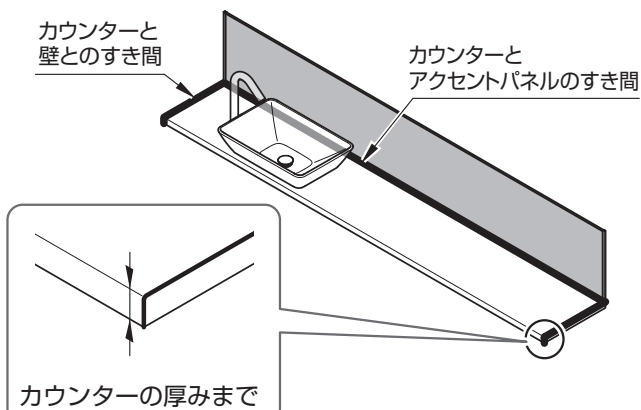


Lサイズ ※図はベッセルタイプ(角形)

【アクセントパネルなしの場合】

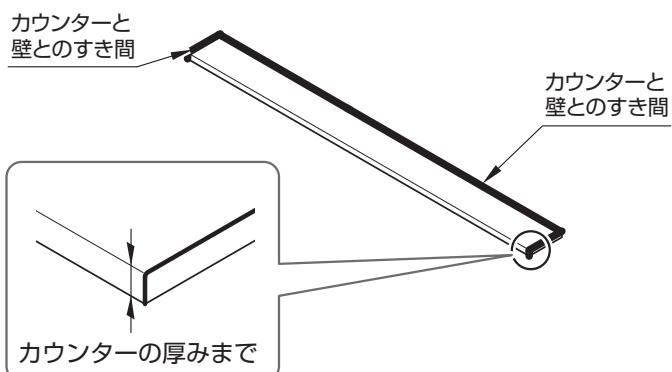


【アクセントパネルありの場合】

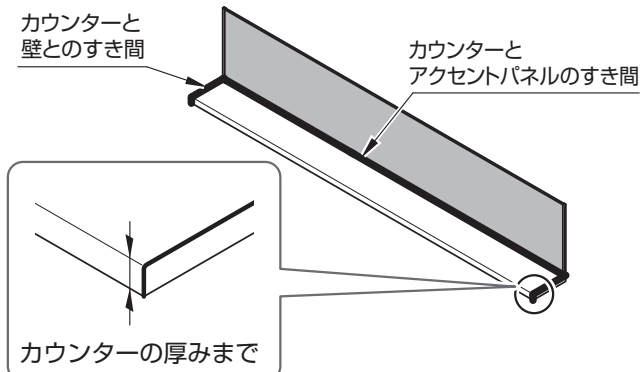


手洗器がない場合 ※図はMサイズの場合

【手洗器なし(アクセントパネルなし)の場合】



【手洗器なし(アクセントパネルあり)の場合】



19.ビルトインリモコンの組み合わせ設定

必ず実施

組み合わせ設定

●下記の「組み合わせ設定」をしないと各機器が作動しません。

- 照明付化粧鏡の取付有無によって、
組み合わせ設定 **A** または **B** を選択してください。

キャビネット施工時に
照明付化粧鏡を取り付けていない

キャビネット施工時に
照明付化粧鏡を取り付けた

B 次ページ参照

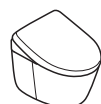
A

●本書の「取付方法」を完了してから行ってください。

必ず以下の施工手順に従って作業してください。
(施工手順を変えると、正しく設定できない場合があります。)

- ① ウォシュレット本体とビルトインリモコンの電源プラグを差し込む

ネオレストAH・RHの場合



- ② 便座の左側を手で
10秒以内に10回押す (10秒以内)

・「ピッ」という電子音が
鳴ります。

水でぬらした
やわらかい布
(傷つきを防ぐ
ため)



ネオレストNXの場合



- ② 便座右上の流すボタン⑥
を押し続ける (10秒以上)

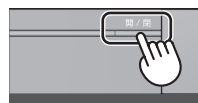
・ ボタンを押すとすぐに「ピッ」と
いう電子音が鳴りますが、約10
秒後に「ピッ」という電子音がもう
一度鳴るまで押し続けてください。
(1回目の電子音は、便器洗浄の受付音です。)



ウォシュレット本体が設定状態に入ります。

※設定状態は約2分です。時間内にすべての設定を完了させてください。

- ③ ビルトインリモコンの **開/閉** を押す

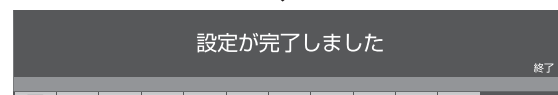


- ④ **止** を5回押す



5回押す

設定完了



「設定が完了しました」と表示されない場合は、組み合わせ設定が完了していません。
手順②からやり直してください。

- ⑤ **終了** を押す

画面にボタンが表示されます



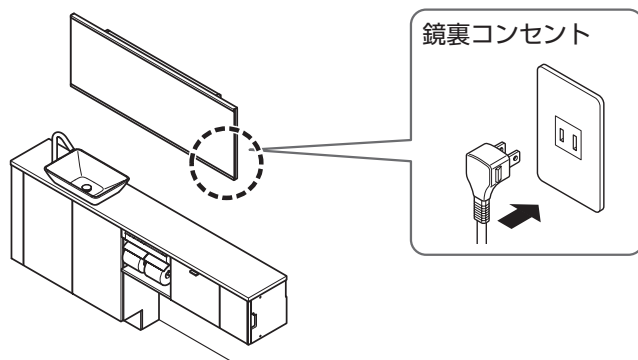
B

●本書の「取付方法」および「照明付化粧鏡(オプション)」の施工までを完了してから行ってください。

参照 照明付化粧鏡の取り付けは、照明付化粧鏡に同梱の施工説明書を参照してください。

必ず以下の施工手順に従って作業してください。
(施工手順を変えると、正しく設定できない場合があります。)

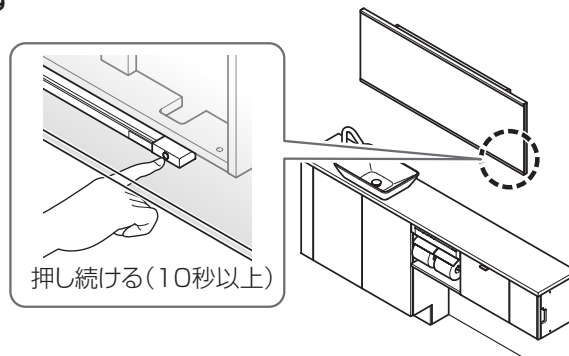
1 下図の電源プラグを差し込む



2 照明付化粧鏡の内側にあるボタンを、10秒以上押す

●設定状態に入り、照明付化粧鏡が1秒おきに点滅します。

※設定状態は約5分です。
時間内に、すべての設定を完了させてください。



3 ウォシュレット本体とビルトインリモコンの電源プラグを差し込む

ネオレストAH・RHの場合

4 便座の左側を手で 10回押す
10秒以内に10回押す(10秒以内)

・「ピッ」という電子音が
鳴ります。
(設定状態に入ります。)

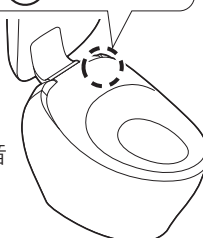
水でぬらした
やわらかい布
(傷つきを防ぐ
ため)



ネオレストNXの場合

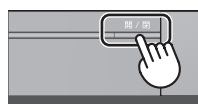
4 便座右上の流すボタン⑥
を押し続ける(10秒以上)

・ボタンを押すとすぐに「ピッ」と
いう電子音が鳴りますが、
約10秒後に「ピッ」という電子音
がもう一度鳴るまで押し続けて
ください。
(設定状態に入ります。)
(1回目の電子音は、便器洗浄の受付音です。)



※ウォシュレットの設定状態は約2分です。

5 ビルトインリモコンの 開/閉 を押す



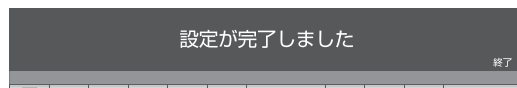
⑥ 止 を5回押す



5回押す

確認（各項目を確認後、□に✓してください）

□リモコン画面に「設定が完了しました」と表示されましたか



「はい」

「いいえ」

手順②から
やり直してください。

□照明付化粧鏡が0.5秒おきに点滅し、約10秒後に点滅が終わりましたか

□ 終了 → 設定 → 次ページへ を押す

→ リモコン画面に「照明」が表示されましたか



すべて「はい」

手順⑦へ

1つでも「いいえ」

止 と パワー脱臭 同時に10秒以上押した後に
手順②からやり直してください。



⑦ 終了 を押す

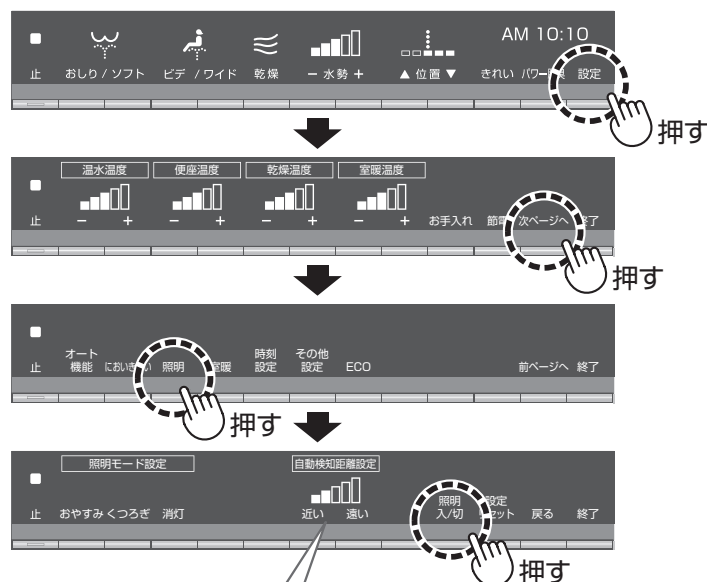


- 「組み合わせ設定」と20.照明付化粧鏡の動作確認が終わりましたら、ウォシュレット・ネオレスト施工説明書の「洗浄水量の切り替え」より、引き続き作業を行ってください。

20. 照明付化粧鏡の動作確認

1 照明の動作確認

- ・ビルトインリモコンより「設定」→「次ページへ」→「照明」のメニューに入る
- ・「照明入/切」により照明付化粧鏡が動作（点灯/消灯）することを確認する
※最後は必ず「照明点灯」の状態にすること



注意

ビルトインリモコンと組み合わせ時はウォシュレットのやわらかライトは点灯しません

2 自動検知距離設定

- ・ビルトインリモコンより「設定」→「次ページへ」→「照明」のメニューに入り、「自動検知距離設定」によりトイレブースの奥行寸法に合わせて設定する
- ・右表のように、設置するネオレストの種類と奥行寸法からなる設定レベル（目安）を設定する
- ・設定後、トイレドアを開けて入室して一步以内で照明付化粧鏡が点灯することを確認する（確認は、トイレ外に出てトイレドアを閉め、180秒以上経過した後の入室で実施）
- ・入室して一步以上進まないで照明付化粧鏡が点灯しない場合は、設定レベルを上げる（たとえば、レベル3をレベル4にする。最大はレベル5）

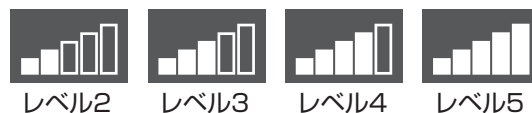
注意

設置するネオレストの機種によりレベル設定値が異なる

レベル設定値（目安）

奥行き寸法	ネオレスト		
	NX	AHW	RHW
1600mm以上1700mm未満	2	3	3
1700mm以上1900mm未満	3	4	4
1900mm以上	4または5	5	4または5

レベル設定値の画面表示



レベル2

レベル3

レベル4

レベル5